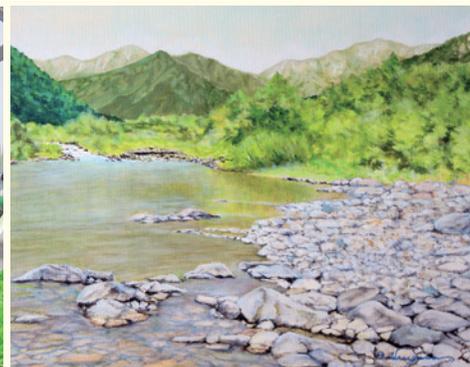


FRONTIER



Contents

- ・東京同窓会 総会 ・故 松田昌士さんを偲んで
- ・かんばれ北大生! 「経済的に困窮する北大生にご支援を!」
- ・グローバル同窓生 / ・世界のアカデミアを歩む ・スウェーデン教員を目指す
- ・職場奮戦記 ・北大YHクラブ ・仲間のお店応援!

表紙の写真 上段:堀井靖代さん/安彦史朗さん/宮城賢治さん
 中段:津田賢一さん/(絵画)長谷川脩さん
 下段:佐々木隆さん/横田浩さん/小嶋徹也さん

令和2年度 東京同窓会 総会	総務委員会	4
会長・副会長・理事・監事/年間スケジュール/委員会役員/評議員/規約		6
新会長就任挨拶 横田浩		10
前会長退任挨拶 杉江和男		12
風景との対話 「別れは何時も唐突に訪れる」 長谷川脩		13
故松田昌士さんを偲んで 広報委員会		14
がんばれ北大生! 「経済的に困窮する北大生にご支援を!」 長谷川晃		22
「学生たちの様子(運動部)」 広報委員会		24
職場奮戦記 「科学コミュニケーションによる未来社会づくり」 佐々木隆		26
「二足のわらじを履きこなす」 小嶋徹也		28
「輝き続ける北海道のために」 安彦史朗		32
グローバル同窓生 「世界のアカデミアを歩む」 津田賢一		34
「スウェーデン教員を目指す」 堀井靖代		38
文系サークル「北大YHクラブ50周年」 宮城賢治		42
仲間のお店応援!	広報委員会	45
海鮮食堂「余市」/焼きたてパン工房「もりーな」/薬膳スープカレー「シャナイア」		
ベルギービール専門店「Comme la Gueuze」/十勝ハーブ牛ホルモン「MONMOM」		
名刺広告/新入会員・訃報		48
北海道大学の近況 (2019年冬~2020年春) 北海道大学総務企画部広報課		52
北大フロンティア基金		60
お知らせ/4コマ漫画「蔵亜久人の北大あるある」 高野葵		62
北海道の花「ウダイカンバ(マカバ)」 鮫島惇一郎		64

企業広告

日本軽金属株式会社/オー・プロヴェンソー/株式会社北海道日建設計/株式会社ぶらう/
 中外製薬株式会社/株式会社トクヤマ ※順不同

アルミのことなら日軽金

北海道大学東京同窓会 令和2年度 委員会役員

■は新任 丸数字は評議員の就任年数

委員会名	委員長	副委員長	委員
総務委員会 (事務局)	③菅埜 誠(経S52)	⑩大久保 英俊(法S56)	⑪畠山 義彦(水S55)
	■①松浦 永治(法H8)	⑧大野 隆明(水院H13)	⑪坂本 茂(経H13)
			②平野 友善(文H5)
			②渡辺 明日香(法H18)
			■②西館 卓人(経H23)
			○米子 智裕(農H02)
組織・交流委員会	■⑥山田 尚大(工院H23)	⑨西野 順子(農院H1)	⑥久野 和哉(経H24)
		■④辻本 陽平(情報院H25)	⑨小中出 拓也(工院H23)
		■④上満 研吾(経院H27)	④内山 壮(文H28)
			■○後藤 さなえ(農S63)
			○川原 史織(農院H25)
			○田村 康将(情報院H27)
			○橋本 和太(水院H28)
			○山本 淳博(環境院H30)
財務委員会	⑩萱野 聡(法S62)		④上満 研吾(経院H27)
	■②平野 友善(文H5)		○波田 大専(経H24)
広報委員会	⑤島田 久(工金属S61)		⑩八谷 俊雄(法H2)
	⑩高橋 寛(農S62)		④松永 千代(文H14)
			⑤青山 千穂(農院H23)
			④高野 葵(環境科学院H25)
			①浦崎 稔史 (H22工院)
			①山本 淳博 (H30環境科学院)
			○陣谷 義直(経S51)
情報処理委員会	⑦松谷 寛(工電S52)	②中村 秀治(工建築S58)	①浜名 純(農S48)
		③原田 武志(工土木H19)	③大久保 高樹(工合成H4)
			⑩溝口 尚重(農H7)
			③長谷川 健(理地惑H14)
			○千葉 寛之(工情報院S63)
募金・産学連携委員会	③廣重 勝彦(法S57)	②井上 修平(工S50)	⑩高橋 寛(農S62)
		⑤菅野 彰一(工建S53)	⑩萱野 聡(法S62)
		○杉江 和男(工院S45)	④大西 裕子(文修H3)
		★石川 裕一(法S54)	⑩溝口 尚重(農H7)
			⑩橋 裕史(法H10)
			⑩坂本 茂(経H13)
			⑩高橋 良佳(医H16)
			⑩常松 尚史(経H20)
			○永田 明(農S54)
クラーク遺徳顕彰・墓参			⑩平田 更一(理植S44)
			②清水 全生(工土木S45)
			■①浅田 清(歯H1)
			○前田 直寛(工土木S43)
			○清水 慧(工衛生S43)
			○関口 光雄(工土木S43)

北海道大学東京同窓会 令和2年度 会長・副会長・理事・監事

■は新任 ★は特命理事 会長・副会長の丸数字は夫々の就任年数 理事・監事の丸数字は評議員年数

会長	■①横田 浩(経S60)		
副会長	④梶谷 辰哉(農林S50)	■①井上 修平(工S50)	⑦樋口 達夫(水S52)
	★石川 裕一(法S54)	②弘田 裕(医S57)	■①志清 聡子(法S61)
理事	⑩平田 更一(理植S44)	①及川 正規(工S47)	■⑬仲 裕(工機47)
	④土屋 裕(薬S50)	⑨松谷 有希雄(医S50)	③菅埜 誠(経S52)
	⑦松谷 寛(工電S52)	⑤菅野 彰一(工建S53)	⑩畠山 義彦(水産S55)
	⑦福西 真(法S55)	■①小口 正範(法S53)	⑩大久保 英俊(法S56)
	⑨畠山 昌則(医S56)	⑤福士 博司(工化合S57)	③廣重 勝彦(法S57)
	■①横井 成尚(農S57)	②中村 秀治(工建S58)	■①近藤 伸一(工院S58)
	②杉崎 順平(歯S60)	⑤島田 久(工S61)	⑨馬庭 透(電子S61)
	⑩萱野 聡(法S62)	⑩高橋 寛(農S62)	⑨西野 順子(農院H1)
	⑥橋本 大志(理H1)	■①浅田 清(歯H1)	④足立 直子(工電H2)
	④今田 久美子(教H2)	④大西 裕子(文H3修)	②平野 友善(文H5)
	⑩溝口 尚重(農H7)	■①松浦 永治(H8法)	⑩中田 裕康(文H15)
	②原田 武志(工H19)	①杉山 美雪(経H20)	⑩常松 尚史(経H20)
	⑥山田 尚大(工院H23)	④上満 研吾(経修H27)	
(特命理事)	★野呂 忠一(薬S39)	★伊藤 洋(農生S48)	★石川 裕一(法S54)
監事	⑩鷺田 千臣(農S58)	⑧向井 拓(法H5)	⑤沖崎 遼(法H21)

北海道大学東京同窓会 令和2年度 スケジュール

	令和2年										令和3年			令和3年度		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
1 総会			13日(土)												5日(土)	
2 評議員会						17日(木)						18日(木)				
3 理事会						17日(木)			3日(木)		18日(木)	18日(木)				
4 顧問会議/学部同窓会 事務局長会議											18日(木)					
5 新年交礼会										22日(金)						
6 組織強化活動																
ジンバ								予定							予定	
OG会(期日未定)																
交流勉強会 (期日未定)																
7 クラーク遺徳顕彰・墓参								18日(日) 霊園墓参								
8 広報活動・会報誌発行					7/17発行						7/17発行					
9 エルム談話室 <毎月第1金曜日予定>																
10 ホームカミングデー						26日(土)										
11 校友会エルム総会			18日(木)													

北海道大学東京同窓会 令和2年度 評議員(世代)一覧表

卒年	学部	名前	就任 年数	理事	委員会	卒年	学部	名前	就任 年数	理事	委員会	卒年	学部	名前	就任 年数	理事	委員会
20歳代						40歳代						60歳代以上					
H30	2018	環境院	山本 淳博	1	広報委員会	H14	2004	文	松永 千代	4	広報委員会	S57	1982	工	福士 博司	4	理事
H29	2017	法	小島 恵太	3		H14	2004	理	長谷川 健	3	情報処理委員会	S57	1982	経済	井上 明	11	
H26	2014	情報院	多田 宗弘	4		H12	2000	農	三浦 隆司	11		S57	1982	水	阿部 修司	6	
H26	2014	環境院	宮佐 穂奈未	3		H12	2000	水産	前田 夏宏	9		S56	1981	農	佐藤 寛	9	
H25	2013	情報院	辻本 陽平	4	組織・交流委員会副委員長	H10	1998	法	山本 剛	11		S56	1981	工院	岩瀬 徹哉	6	
H25	2013	環境院	高野 葵	4	広報委員会	H10	1998	法	橋 裕史	11	募金・産学連携委員会	S55	1980	工	居駒 幹夫	11	
H25	2013	環境院	橋 ジョウ	4		H10	1998	歯	上岡 理晴	11		S55	1980	水産	島山 義彦	11	総務委員会
						H09	1997	工	山口 建章	11		S55	1980	工院	藤田 栄	11	
小計			7名			H07	1995	農	溝口 尚重	10	情報処理委員会 募金・産学連携委員会	S57	1982	医	弘田 裕	11	副会長
						H06	1994	法	高田 清志	11		S53	1978	工建	菅野 彰一	5	理事 募金・産学連携委員会副委員長
30歳代						50歳代											
H24	2012	経	久野 和哉	4	組織・交流委員会	H05	1993	医	岩村 美佳	11		S53	1978	獣	境 政人	5	
H24	2012	文修	彭 秀美	3								S51	1976	医	五十嵐 辰雄	8	
H23	2011	工院	山田 尚大	6	理事 組織・交流委員会委員長	小計			12名			S50	1975	農	梶谷 辰哉	12	副会長
H22	2010	経済	中西 克彦	9								S50	1975	工	井上 修平	2	副会長 募金・産学連携委員会副委員長
H22	2010	工院	小中出 拓也	8	組織・交流委員会							S48	1973	農	浜名 純	11	情報処理委員会
H22	2010	工院	浦崎 稔史	1	広報委員会	H04	1992	工	高野 伸一	11		S48	1973	工	小山内 清潤	8	
H21	2009	法	沖崎 遼	6	監事	H04	1992	工院	江原 猛	11		S47	1972	工	及川 正規	11	理事
H21	2009	工	宮田 康大	4		H04	1992	工	大久保 高樹	3	情報処理委員会	S46	1971	農	高島 章生	11	
H20	2008	経済	杉山 美雪	11	理事	H02	1991	工院	黒田 政寿	11		S45	1970	工	鈴木 憲	11	
H20	2008	経済	常松 尚史	11	理事 募金・産学連携委員会	H02	1990	経済	宇治原 里志	11		S45	1970	農	高橋 周	11	
H20	2008	経済	田口 光輔	11		H02	1990	教育	今田 久美子	4	理事	S44	1969	工	石井 哲夫	11	
H20	2008	工院	加藤 貴臣	11		H01	1989	工	松田 茂広	11		S42	1967	工	岡 隆次郎	11	
H18	2006	経済	濱田 恵輔	11		H01	1989	工	山森 聡	11		S42	1967	医	伊藤 敦之	11	
H19	2007	農院	鈴木 貴文	8		H01	1989	理	橋本 大志	6	理事						
H19	2007	工	原田 武志	3	理事 情報処理委員会副委員長	S63	1988	法	石岡 正浩	11		小計			24名		
H17	2005	法	山田 敏之	11		S63	1988	理	原澤 直子	11							
H17	2005	工	酒井 美帆	11		S63	1988	医	根本浩一郎	5							
H16	2004	理	増岡 弘之	11		S63	1988	工院	千葉 寛之	3	情報処理委員会						
H16	2004	医	高橋 良佳	11	募金・産学連携委員会	S62	1987	法	萱野 聡	11	財務委員会委員長 募金・産学連携委員会						
H16	2004	水産	矢部 いつか	11		S62	1987	農	岡村 浩	11							
H15	2003	文	中田 裕康	11	理事	S61	1986	工	島田 久	5	理事 広報委員会委員長						
H15	2003	経済	西 孝一郎	9		S61	1986	理	中村 知遠	9							
						S60	1985	工	白田 亨	11							
小計			22名			S59	1984	工	岩崎 哲也	11							
						S58	1983	農	齋田 千臣	11	監事						
						小計			20名								
						合計			85名								

北海道大学東京同窓会規約

改定案	現行(令和元年6月8日改定)
<p>【役員の任期】</p> <p>第10条 役員の任期は3年とする。再任は妨げない。会長および副会長は、夫々就任後任期2期(6年)を上限とする。 ただし、学部同窓会の推薦する副会長の任期は延長することができる。</p> <p>2. 学部選出の評議員と世代選出の評議員は任期を通算する。</p> <p>3. 役員の欠員が生じたときには、速やかに補充し、その任期は前任者の残余期間とする。</p>	<p>【役員の任期】</p> <p>第10条 役員の任期は3年とする。再任は妨げない。ただし、会長および副会長は、夫々就任後任期2期(6年)を上限とする。</p> <p>2. 学部選出の評議員と世代選出の評議員は任期を通算する。</p> <p>3. 役員の欠員が生じたときには、速やかに補充し、その任期は前任者の残余期間とする。</p>

北海道大学東京同窓会 令和2年度 評議員(学部)一覧表

学部 卒年	名前	就任 年数	理事	委員会	学部 卒年	名前	就任 年数	理事	委員会	学部 卒年	名前	就任 年数	理事	委員会
農学部					理学部					文学部				
S48林	川喜多 進	12			S44植	平田 更一	15	理事	クラーク道徳顕彰・基参委員	H03文修	大西 裕子	14	理事	募金・産学連携委員会
S50農化	丹羽 弘	9			S52地産院	勝島 尚美	8			H05文	平野 友善	2	理事	財務委員会委員長 総務委員会
S51農化	戸田 信之	9			S59数学	鈴木 徹	13			H28文	内山 社	4		組織・交流委員会
S57農化	横井 成尚	1	理事		H14地球	相澤 晃	12							
S62農工	高橋 寛	11	理事	広報委員会委員長 募金・産学連携委員会	H19化	小坂 由紀	10			小計		3名		
S62農工	瀬戸山 洋介	13			小計		5名							
H1農院	西野 順子	9	理事	組織・交流委員会副委員長						教育学部				
H18農研	伊藤 真吾	4			工学部					H03教育	中島 樹生	10		
H22生資	二木 智	9			S44機械	中原 豊	14							
H21共生	鈴木 克昌	9			S45土木	清水 全生	2		クラーク道徳顕彰・基参委員	小計		1名		
H23院	青山 千穂	5		広報委員会	S47機械	留目 一英	9							
小計		11名			S47機械	仲 裕	13	理事		法学部				
					S48建	足立 守	10			S50法	奥野 滋	9		
					S49建	中山 茂樹	8			S50法	新城 修	14		
獣医学部					S50金属	山崎 信男	9			S53法	小口 正範	1	理事	
S45獣医	采 孟	9			S52電子	松谷 寛	7	理事	情報処理委員会委員長	S55法	福西 真	7	理事	
S59獣医	矢原 芳博	5			S52原子	大谷 武彦	13			S56法	高見 之雄	9		
H11獣医	米久保 和樹	4			S52金属	升光 法行	9			S56法	大久保 英俊	14	理事	総務委員会 副委員長
小計		3名			S57土木	本多 清輔	11			S57法	廣重 勝彦	3	理事	募金・産学連携委員長
					S56合成	谷口 泰之	10			S61法	志清 聡子	8	副会長	
					S56土木	野田 徹	4			H02法	山口 公範	13		
薬学部					S57電気	松尾 望	9			H02法	八谷 俊雄	12		広報委員会
S49薬	近藤 達仁	9			S57土木	増田 達	9			H03法	石橋 祐介	9		
H50薬	土屋 裕	4	理事		S58院	近藤 伸一	1	理事		H05法	向井 拓	9	監事	
小計		2名			S58建	中村 秀治	2	理事	情報処理委員会副委員長	H08法	松浦 永治	1	理事	総務委員会委員長
					S60機械	石田 充	13			H18法	渡辺 明日香	2		総務委員会
					S60機械	菊地 正武	13							
医学部					S61電子	馬庭 透	9	理事		小計		14名		
S50医	松谷 有希雄	13	理事		H02衛生	杉山 茂	1							
S56医	島山 昌則	9	理事		H01衛生	山本 有孝	1			経済学部				
S58医	福島 亮治	9			H02電子	足立 直子	14	理事		S47経済	半崎 貴敏	9		
S61医	大塚 吾郎	13			H03電子	鈴木 政直	5			S52経済	菅笠 誠	3	理事	総務委員会委員長
S61医	森 清	13			H07合成	平島 亘	11			S60経済	横田 浩	2	会長	
H01医	杉森 裕樹	13			H07情報院	滝内 邦弘	5			S60経済	中井 啓之	9		
H05医	松本 明郎	7			H15情報院	山田 将史	8			S61経済	松山 哲人	1		
H13医	中田 勝巳	13			H17環境	勝部 泰子	12			H07経済	藤井 考先	9		
小計		8名			H21資源	中山 卓人	5			H13経済	坂本 茂	11		総務委員会 募金・産学連携委員会
					小計		29名			H23経	西館 卓人	2		総務委員会
歯学部										H27経院	上溝 研吾	4	理事	組織・交流委員会副委員長 財務委員会
S60歯	杉崎 順平	2	理事		水産学部					小計		9名		
H01歯	浅田 清	1	理事	クラーク道徳顕彰・基参委員	S52食修	樋口 達夫	8	副会長						
小計		2名			H03食	釜谷 明	12							
					H06食修	大野 隆明	8		総務委員会副委員長					
					小計		4名							
S39薬	野呂 忠一	特命	理事		S48農生	伊藤 洋	特命	理事		合計		91名		
S54法	石川 裕一	特命	副会長	募金・産学連携委員会副委員長										

新会長就任 横田 浩さん

(H60・経)

6年間会長職を担ってこられた杉江和男さんに替わり、令和2年度より横田浩さんが新会長に就任されました。今年度は総会が開催されなかったため、広報委員会が新会長をインタビューし、同窓会に対する思いや人となりを紹介いたします。



◇東京同窓会との出会い

札幌農学校同窓会に携わっている兄から、東京支部の先輩を紹介していただいたことがきっかけで、数年前から北大東京同窓会に参加するようになりました。

杉江前会長の後任のお話は、会長候補指名委員会より頂戴しており、丁重にお断りしてきたのですが、その先輩方から「若い世代への転換のため」という強いお勧めがあり、僥倖ながら引き受けさせていただくこととなりました。

事務局としてしっかり連携して円滑、活発な同窓会にして行きたいと思っております。

◇同窓会活動について

大学を盛り立てていく存在でありたいですし、会員の方には何らかのベネフィットを感じてもらえる機能を持ちたいと思います。

大学の財政が厳しくなる中、国からの運営交付金だけで従来の研究活動を続けていくことが困難になり、現場では苦みされている話が聞こえてきます。役所に提出する資料や管理業務が増え、本来の

研究に費やすべき時間が削がれているのは本来の姿ではないと思っています。大学は本来、研究と人材供給が目的です。これまで取り組んでこられた産学連携委員会の活動など、同窓会としてもいろいろな形で大学を後押ししていきたいと思っております。

そしてもう一つ考えていることがあります。それは、北大の存在意義とか、北大で学んできたことの意義をもう一度認識できるように文化的な取り組みを行っていきたいということです。というのは、北大は1876年に開校して145年が経つてますが、時代は変わってもクラーク博士が唱えたフロンティア精神を基本理念に掲げている大学です。同窓会でもその精神を繋げていきたいと思うからです。

昨今の新卒や若い人たちは優秀な人が多く、いろいろな資格を持って就活を行い、転職しています。そうした技能は仕事に活かせるので、資格を持つことに越したことはないのですが、その一方、人間としての魅力や人格、本質的なことを考える大切さが忘れられがちです。わたしは常々それを磨くことを怠ってはいけなさと感じています。スキルは必要条件ではあるけど十分条件にはならないのです。

北大キャンパスにはたくさんの方の学部があり、多様な考え方が混在しているのだと思います。

19世紀以降、世界経済は順調に発展し、地球で最も人類が繁栄し、幸せを享受してきましたが、それらは化石燃料をベースにしたものです。今日、化石燃料からのCO2の排出が自然循環の調和を乱し、温暖化により自然災害や感染症発生リスクが高まっております。このままでは人類の未来は破滅に向かうということが、今回のコロナ禍によって強烈に突き付けられているのだと思います。

日本のエネルギー政策をみれば、脱炭素に向けての明確な戦略が掲げられておらず、エネルギー政策の抜本的見直しを図り、脱炭素と経済発展の両立を図る戦略を早急に進め、世界でリーダーシップを発揮すべきだと思います。

自分のいる会社においては、以前よりビジネスモデルの転換を計画していましたが、それを加速させる必要性を強く考えるようになりました。会社は常に社会の変化に応じて変革し続けねばなりません。このような課題を課せられたチャンスだと前向きに考え、チャレンジしていきたいと思えます。

(株式会社トクヤマ
代表取締役社長執行役員)

◆東京同窓会 新会長挨拶

するユニバーシティです。自分の学生の頃を振り返れば、そのキャンパスで人としての大切な土台を学んでいたのだと思っています。今でも「Boys be ambitious」に憧れて入学する学生も多いでしょうし、4年間で多少なりともその風土を感じ取っているのではないのでしょうか。

北大の良さを今一度確かめるために、世界で活躍された偉大な先輩たちのことを知り、大先輩に恥ずかしくない生き方や考え方を、北海道大学の矜持を学ぶ機会を作りたいと考えています。

◇愚直に徹したアイスホッケー

わたしの場合、北大進学理由はほかの方々と少し違っています。アイスホッケーをやりたくて入学したと言ってもいいかもしれません(笑)。でも入学してみると練習はかなり厳しくて、大学でアイスホッケーに明け暮れる生活を夢見て入部したものの、思い描いていた以上のアイスホッケー漬けの毎日でした。

国内アイスホッケーの発祥と言われる北大スケート部は、インカレ上位を目指していました。当時の関東一部上位校の部員の多くが、苦小牧や釧路で小学生の時からアイスホッケーで鍛えられた経験者です。一方、北大は8割以上が大学



から始めた素人集団。勝つために、一にも二にもひたすら鍛錬する、というのがスケート部の基本でした。強豪校の経験者たちが子どももの頃から大学に入るまでに滑っていた滞水時間以上、滑ることを目標に掲げ、真駒内リンクで400m×200周、80kmのスケートティング練習を一週間行ったこともありましたが、一回の練習で滑る距離としては、スピードスケートの選手でもやらないもので、リンクキーパーがあきれられるほどでした(笑)。

それでも関東一部校にはテクニックでは敵わないことは一目瞭然。我々は、華麗な技術やプレーを求めず、走り負けないための愚直な練習を行い、試合中は常に相手にプレスをかけ続ける戦術に徹する。スケート部ではそのことを4年間叩き込まれました。

◇若手へのアドバイス

40年近く前、新人で最初の配属先が本社工場の労務課でした。暫くの間、先輩たちの議論に全くつ

いていけません、正直焦りました。毎日労組役員や製造現場の人たちと交流・議論することが仕事でしたから、勉強は専ら週末に寮の部屋にこもって懸命にやりました。続けていくうちに、いつの間にか議論に加われるようになっていきました。徹底的に基礎知識を叩き込み、実戦で理解を深める、その繰り返しでした。これが私の社会人の原体験です。また、労務の仕事を通じて、会社の発展は生き生きとした社員の活力にかかっているということを強く意識するようになりました。

会社は組織で動いています。困難な局面を打開していくのは、個々人の力量の総和であり、如何に個人の力を磨いていくかが極めて重要です。これは団体スポーツであるアイスホッケーと通ずるものがあります。

また、私はビジネスのチャンスは常に天から降ってきていると思っております。そうしたチャンスをつかむためには、日頃から勉強を重ね、人とのネットワークを築き、感度高く網を張っているかにかかっています。これを「実践した人」が最後に成功するのだと思います。

◇コロナ禍で思うこと

コロナ禍で痛切に考えさせられることは、人類がどんなに進歩し

身近に感じたSDGs

前東京同窓会会長 杉江和男

地方創生に奮闘する
よそ者リーダー

私の生まれ故郷の十勝郡浦幌町では、二回り若い近江正隆氏が、学校と地域の協働で子どもが夢を抱く町、うらほろスタイル”を提唱。今年、北大理学部から三宅草一朗氏を新人で迎え、新しいSDGs「教育×地方創生」モデルを着々と実践している。

子供の頃に魚釣りが得意であった近江氏は、目黒区に生まれ戸山高校に進んだが、自分らしい生き方を求めて清水海員学校に進学。その後北海道に渡った。漁師になりたくて釧路から広尾、苫小牧、渡島、奥尻、長万部、小樽の漁港を訪れ、2ヶ月間、テントと携帯コンロだけで職を求めたが、誰にも相手にされなかった。しかし「一度でも船酔いしたらクビだ」と言われ拾ってくれたのは、二度目に訪れた浦幌の老漁師だった。

網を上げる時の高揚感、消費者に新鮮なシシャモを直接届けるネット通販で充実した17年を過ごしていたが、漁の最盛期、徹夜続きの中で眠気に襲われ船が転覆。

よそ者の目で眺めていた地元漁師に助けられたが、その後、船を降りる苦渋の決断をした。

自分の存在価値は何か、地域に恩返しをしたいと思案する中で、一次産業の価値を消費者に繋げたいと考え、地域活性を目指す㈱ノースプロダクションを創設。地元の子供に農・林・水産業の価値を伝えるため、小学生を農家や漁師の家にホームステイすることから始めた実学教育は、今ではNPO法人「食の絆を育む会」を母体として、年間3000人の本州の高校生を十勝に招くホームステイ事業に発展している。

それは酪農家での2日間の実習である。乳しぼりや糞で汚れた敷き藁の始末を終えた女生徒が、帰る際、「乳牛の一生は人間のようにゆったりとした老後が待っている訳ではなく肉になる」と聞いて涙を流したという。これこそが目指す本当の教育ではないだろうか？

「価値」こそ仕事を求めるもの

現役時代、山崎製パンの飯島延浩社長から譲っていただき社長室に貼っていた経営学の父

Peter Drucker のポスターには「What is our business? Who is our customer? What does our customer consider value?」の三行だけが書かれてあった。

私が勤めたDICは世界最大の印刷インキ会社であり、圧倒的な市場シェアを誇っていたにも拘わらず、M&Aで欧米事業を入手した頃から紙用の印刷インキの需要が低迷し、低収益が続いていた。それは、16世紀から500年以上に渡って新聞・雑誌が市民に情報を提供してきたが、アメリカでは1980年台後半からパソコンが情報源になり始めたからである。

100年以上に渡り生業としてきた印刷インキ会社にとって、Druckerが唱える価値は新たな道を示唆してくれた。消費者が求める価値は情報であり、印刷物や情報機器はその伝達手段である。そこで、色彩や合成技術力を活かして、情報機器に使われる液晶化合物・顔料などのR&Dに勢力を集中。幸い今では数商品が大きな世界シェアを持つに至っている。

どんな商品にもライフサイクルがあり、凄くモノでも早ければ1年、長くても20年で殆ど市場から消えていく。新しい商品の開発目標をモノ(=Material)に置くのではなく、それらが生み出す価値(=Value)に置き、美しい・

綺麗・楽しい・便利などの価値は永遠に存在する。その時代に合った価値を叶える商品・サービスを提供する、という視点を持つことがSDGsの秘訣である。

トップよりリーダーを目指す

私が描くリーダーは、自分で旗を振る人ではなくフォロワーが出来る人である。リーダーは、志・信念を持ち正しい目標を設定する、他人の意見をよく聞き理解して自ら行動する、公平公正、私利よりも利他を条件とする。全て自分の心がけて出来ることで難しくはない。そうした人に周りは助けあげたい気持ちを抱き、何倍もの知恵が集まるものだ。

東京同窓会は、若い同窓生が北大東京シンパなどイベントを自ら企画し、取り組んでいる。千人以上の催しは、志、熱意、協働心、コミュニケーション力、課題解決力そして利他の精神が無ければ成り立たない。そこで培うリーダーシップ、人との繋がりは、仕事の場面では得られない価値を生み出す契機になると私は信じている。自らのSDGsを模索し、生き方を磨く上で、同窓会ネットワークを活かしていただきたいと心から願う。

参考文献：だから僕は船をおりた、「SDGs時代のパートナーシップ」・第10章

風景との対話

別れは何時も唐突に訪れる

長谷川 脩(昭42工・電子)

「別れは何時も唐突に訪れる」と言われる。東京黒百合会のTさんの訃報が届いたのは平成30年の夏だった。最初にTさんと話をしたのは、描いた絵の巧みな技法について質問をした時である。

この知らせの僅か2ヶ月前、Tさんの出身地、越後湯沢で会の写真会が開かれたばかりだった。

Tさんは参加されなかったが、小学校の同級生が営む宿に泊まり、天候にも恵まれて、谷川連峰の一つ大源太山の麓や土樽公園近傍での写生を堪能してきた。

翌年、秋の東京黒百合展への出展は、Tさんもしばしば郷里の川を描いていたことを思い出し、鎮魂の意味を込めて、スケッチした「魚野川」を10号の油彩にまとめた。

展覧会に来場された方々と歓談して、教えられたことがあった。

「魚沼を流れる川」が訛って魚野川になったと話した方は、自分も溪流釣りに出掛けたのは

「ここだった」と言われ、水量と水量が魚沼地方の産業の基盤であること、魚影が濃いことを話してくれた。更に、陸上の瀬古選手を育てた恩師・中村清は、趣味の溪流釣りに来たこの魚野川で足を滑らせて死亡し

「魚野川」油彩、P10, 2019/09



ただとも教えてくれた。

そのような事柄を何も知らずに描いていたが、恥ずかしかつたのは「何という山？」と聞かれて答えに窮した事だった。スケッチの場所から谷川岳が見えないことは知らされていたが、その他の山々(近景、中景、遠景ともに)の名前は全て分かっていなかった。急ぎ絵の写真を撮り、スケッチをした場所を明示し、魚沼市観光協会に問い合わせをしてみた。すると、すぐに返事があり、送った写真の山々の頂きから引き出し線が引かれ、全ての山の名前が手書きされていた。

- 〈左手前〉 荒沢山の裾野
- 〈右手前〉 タカマタギの裾野
- 〈中景左〉 清水ゲラ
- 〈中景右〉 北ケドノ頭
- 〈後景左〉 左から
大障子ノ頭、万太郎山
- 〈後景右〉 左から
エビス大黒ノ頭、仙ノ倉山

(どれも初めて知る名前ばかりだった)

また、いつも来場される方が、この絵を玄関に飾りたいと申し出てくださった。もともとTさんへの鎮魂を意図したもので、Tさんにも喜んでもらえるのではと思い、ご厚意を受けることにした。展覧会が終了し絵の発送を終

えて間もなく、玄関ではなく居間に飾ったという写真入りのお手紙を頂いた。

それから、暫く経ってからのことだった。NHKで放送中の「グレートトラバース3」第23集(知られざる絶景)を観ていた。この番組はアドベンチャーサーの肩書を持つ田中陽希(36歳、富良野育ち)が、三百名山全ての完全人力踏破に挑戦するドキュメンタリーである。23集は尾瀬の至仏山から谷川連峰へ抜けるルートだった。谷川連峰の縦走を始める時、新潟側から群馬側へ峰を越え勢いよく流れ落ちていく雲、息を呑む絶景「滝雲」が現れた。トレニングを始めた頃に彼は、連峰の縦走が厳しく途中棄権したこと。連峰というのは谷川岳に続く万太郎山、仙ノ倉山で「魚野川」で描いた遠景の山並みである。

今回、厳しい縦走を果たし、若い時の苦い経験を乗り越えた表情は晴れやかだった。描いている時、この遠景の山々がそれ程にキツイとは想像も出来なかった。自分が縦走することは難しいが、この番組で図らずも疑似体験をした。

魚沼の風景に身を置いてスケッチをした絵が、いくつもの物語を育んでくれた。改めて、心からTさんの早逝を悼み、安らかなご冥福を祈った。



左から3人目が松田さん(北大東京同窓会総会にて)

この春続けて、二人の大切な北大法学部出身の新しい後輩を失った。中村睦男さんと松田昌士さんである。中村さんは、小生の副学長を務めてくれ、次の第16代北大総長となった、「真面目が上下(かみしも)を着て歩いているような人であり、憲法学者ならさもあり人という、小生には驚くべき人



松田昌士さんを送る

北海道大学名誉教授(第15代総長) 丹保憲仁(S30・工)

あった。それに対して、松田昌士さんは「肝っ玉が防弾チョッキを着て歩いている」といったら語弊そのものになりかねないが、到底小生のような大学育ちには想像もつかない、大きな足の人である。しかも、新制大学院が出来たばかりの時代、院生としてローマ法をはじめとして、すごい勉強をした人である。

大学院をあまり重視しない傾向にあった法学部で、本格的に学問を志した時期を持ったことが、彼の社会活動に、特に国際の場での活動に大きな基盤を与えたのではないかとと思う。折に触れて、院生が彼一人の大学院で、あらゆる講義を聴くことが出来たことを、懐かしく話してくれたのを思い出す。小生が北大125周年事業を進めた折り、親身になって応援してくれた同窓の筆頭が松田さんである。子供の頃、札幌駅長をしていた松田さんの家が、小生の家の近くで、僕は彼の家の前を通って札幌師範の附属小学校へ、彼は僕の家



故 松田昌士さんを偲んで

元 北大東京同窓会理事長 (S36 法・修)

令和2年5月19日、松田昌士さんが御逝去されました。御冥福をお祈り申し上げますと共に謹んでお悔やみ申しあげます。松田さんが東京同窓会理事長時代、小生は総務委員長でした。このことより小生、同窓会広報委員会、事務局の廣重さんとで追想録を纏める作業を進めてきました。生前、松田さんと交友の深かった諸氏に追想の辞を書いて頂き、掲載順は丹保元総長、鈴木北海道知事に続き、基本的に卒業年度順とさせて頂いていただいております。松田さんの数々の御功績を偲び、安らかにおやすみされることをお祈りいたします。

笹田琢夫(S36・法) 合掌



の前を通って幌西小学校へ通っていたと思う。新宿のJR東日本の社長室で、北大への応援を頼みにいったときに、記念にもらった駅

松田昌士さんを偲んで

北海道知事 鈴木直道



夕張市長になって2年目、北海道倶楽部の松田会長に、財政破綻した夕張の実情と目指す姿についてお話しする機会をいただきました。松田会長は、孫くらの私の話に、うなずきながら耳を傾けてくださいました。さらに、まだ経験の浅い私が、人脈がなくて苦労しているだろうと、北海道ゆかりの政財界の方々が集まる場で夕張をPRする場を設けていただき、その後も、ふるさと納税やメロンの売り込み等、いろいろな形で後押しいただくなど、本

追憶の記

田中充(S28・文)

初めて松田さんに面談したのは、ボクが勤めていた会社の専務になり公務部担当になったときでした。NTTの児島くんに紹介の

【プロフィール】

松田昌士さん(まつだ まさたけ)

井手正敬氏、葛西敬之氏と共に「国鉄改革3人組」と称され、その筆頭として国鉄分割民営化に尽力した。国鉄分割民営化は、中曽根内閣が実施した行政改革で、日本国有鉄道(国鉄)を6つの地域別の「旅客鉄道会社」と1つの「貨物鉄道会社」などに分割し、民営化するもの。それらの会社は1987年(昭和62年)4月1日に発足した。民営化後は、JR東日本の社長・会長を歴任し、道路関係四公団民営化の委員として参画する等、当時の内閣総理大臣・小泉純一郎が主導した聖域なき構造改革路線において、民営化を成功させた立役者として活躍した。

- 1936年 北海道常呂郡野付牛町(現・北見市)に生まれる
当時、父親は野付牛駅(現・北見駅)に勤務
- 1954年 北海道札幌北高等学校卒業
- 1959年 北海道大学法学部卒業
- 1961年 北海道大学大学院法学研究科修了、国鉄に入社
- 1993年 同社代表取締役社長に就任
- 2000年 同社代表取締役会長に就任
- 2002年 道路関係四公団民営化推進委員会委員に就任(～2003年)
- 2005年 全日本アマチュア野球連盟会長に就任
- 2006年 JR東日本代表取締役会長を辞し、取締役相談役に就任
- 2009年 北海道大学名誉博士
- 2011年 JR東日本嘱託に就任
- 2020年 肝臓がんのため死去、84歳。
政府は没後、従三位に叙するとともに旭日大綬章を追贈

ところで損保にとつて国鉄は、国鉄が国有企業である限り、商売上の取引先としての魅力はさほどなく、職員の住宅家財や自動車の保険などに限られていました。むしろ資産運用としての鉄保債の購入に積極的な会社7社に限って、細々と損保取引をやっていました。従って経理部が主体でしたが、民営化後も経理部が担当として牛耳るような風でした。当社は単独での鉄保債は購入していませんので、経理部からは全く相手にされませんでした。

も言葉がなかつたです。仕方ないから浦和の社宅に直筆の下手な字で願いの文章を書き送ったのは民営化実施の直前のことでした。国鉄最後の日も部長と国鉄内を挨拶して回りました。不思議なもので経理部以外にあちらこちら情報を取るため訪問していると、同情でしょうか当社ジンプの人がお二人ほどおられました。丁度、国鉄本社の玄関前は看板表示を外すところで、マスコミで大変な人だかりでした。経理部を含め挨拶周りを終えてビルの人を出るとき、部長にこのビルへの訪問もこれが最後だねと話したことも忘れられません。

そんなある日、社長がそのときの運輸大臣の橋本龍太郎のところへ尋ねてみるかとの話になり、二人で大臣室で大臣に面談した記憶が強烈に残っています。大臣は背広でなく国鉄の制服姿で執務していました。社長とボクの意見は一致していました。何とんでも首都圏を含む今のJR東と取引しておきたい、それには国鉄内の誰を頼っていいかわからないから聞き出すことが訪問の目的でした。大臣は言下に「それは松田君しかいません、私は松田君を東日本の中心におくつもりです。」と即答されました。大臣室を出ましたらそこに松田さんがおりましたので社長を紹介したことも覚えていません。しかし何度訪問しても松田さんはずっともずんと

輩から薫陶を受けてきた。先輩が説く北海道にできること。道内酪農の国際競争力向上に臨んでいた私の答えは、内地向け牛乳の道内加工、チーズ工場新設、そして北大での乳研究支援だ。もちろん同窓会発展にも尽力させて頂いた。嗚呼悲しいかな！去る2月3日の酒席が歓談のターミナルになるとは。陰に陽に支えて頂いた松田先輩に深く感謝し、心からご冥福をお祈りします。

てもらい、そのことが北大東京同窓会の理事長を児島君のあと松田さんが引き受けた経緯となったものです。松田さんが理事長になってから

松田昌士さんを偲ぶ

松田さんと私は、昭和30年に北大に入学した同期の桜である。彼は法学部、私は工学部だった。で、在学中の交わりはなかった。互いに経営者として社会的に活躍するようになってからいろいろな場で親しく交わりを持つ様になった。



沢邦彦 (S 34・工)

私は副理事長としてその運営に携わった。こうした場では、松田さんは、殆ど自分の意見を出さずに「まあ、いいんじゃないの」と言っていて、皆に闊達な意見を出させていた。

北大の関係では、北大の独立法人化を前にして、その在り方を審議する「北大運営諮問委員会」や「クラーク記念財団理事會」で一緒に、また同窓会では、「北大東京同窓会」や「北大連合同窓会」で、彼が理事長の時に、

国鉄改革で辣腕を振るった松田さんや道路公団民営化委員として政府の施策に立ち向かった時の松田さんとの違いに彼のスケールの大きさを感ずることしばしばであった。太い人生を走りぬいた偉大な男であった。

豪傑の士 松田昌士先輩

先輩の酒宴は活気に満ちる。集うは児島N T T社長や高秀横浜市

中山悠 (S 35・農) 株式会社明治名誉顧問

長などの同窓生に産官学の国を想い北海道を愛する多士済々。先輩

が国鉄改革や北海道の自立などの持論を論じると皆も持論を述べ喧々諤々と語り合う。中でも先輩が主唱する首都圏同窓会の強化や同窓会による北大独法化支援には皆心動かされ結集した。新渡戸カレッジや観光学高等研究センターも北大と郷里を尊ぶ先輩の発案だ。先輩の先見力と構想力に何度感服したとか。



道灌山の会食から30年余私は先

道灌山の会食から30年余私は先

道灌山の会食から30年余私は先

松田昌士氏を悼む

株式会社アークス代表取締役社長

帝国ホテルロビーで「オーイ、横ちゃん！」の大声に驚いて振り向いた。



「何だ松ちゃんか！相変わらず元気だな。」と答えたら、周りの空気が固まった。全盛時代の松田社長がそこに居た。あっ、この人は偉い人なんだと反省した。北大連合同窓会で協働したが、卓越したリーダーシップは、流石、超一流の経営者であり思想家でもあると感じ入ったものである。

北大フロンティア基金を開き反応を問えば、未だ醸金なしと云う。最初は会長に頼むと言えは「俺はサラリーマン。君がやれ！」と宣う。渋々出した結果が「醸金第一号」として、今でも名札が掲げられている(彼の配慮)。

国鉄民営化時代、ホテルオークラで一年半程暮らした話で「高級ホテルより新宿の小便臭い居酒屋がやたら懐かしかった」と庶民感覚を中心にした人生観を披瀝していた。

「風の噂では元気の様だね、まだやっているのか」と年賀状の添書が最後の便りであった。

「横ちゃん元気か！」偉丈夫の声が聞けない残念無念。「松ちゃん安らげくお眠りあれ」

松田先輩を悼む

石川三千雄 (S 36・工)

5月19日、松田昌士(マサタケ)元JR東日本会長の逝去の報に接し、しばし言葉が出なかつた。顧みれば昭和32年4月に遡る。石川は神戸高校柔道部出身で3年間柔道にまい進、1年浪人の後、北大に合格。下宿を探してくれた大崎恵治学生課長(柔道部先輩)の紹介で柔道部へ入部。



入部するなり6月に開催予定の七帝戦―東大七徳堂―(現在は七大学柔道優勝大会)に向けて毎日猛練習が続いた。そんな猛練習とは関係なく週2回だけ練習に来る白帯の2年先輩がいた。法学部で猛烈に勉強しているという松田さんで、数回相手をしたが黒帯2段の石川では相手にならなかつた。周りの先輩たちも無理強いもせず勉学に励むように勧めていた感柄も明るく皆が気を使って遠慮していた。しばらくの後、引退され



昭和32年頃の北大柔道場



北大柔道 2019 HOKUDAI JUDO



左から笹田さん・村上さん・中村先生・松田さん・村住さん

たが大学院に進んだという話を聞いた。その後、松田昌士先輩の消息を知ったのは、昭和60年前後の「国鉄改革3人組」の中心人物というところで思いだした。きつと国鉄改革は命がけであったのであろうと。毎年発行される会報「北大柔道」には松田先輩の入学年度は記されていないも住所・連絡先は空欄であった。

巨星墜つ!

コロナ騒動の中、松田先輩は忽然と旅立たれた。松田さんは先輩というだけではなく、私達北大OBの正に「希望の星」であった。初めて松田さんにお会いしたのは、JR東日本の社長室であった。当時、私は「NTT再編成(分割)問題」の責任者として、いろいろなプレッシャーを受けている時であった。既に国鉄の民営化を成し遂げていた松田さんに教えを乞うべく訪ねたのであった。

松田さん曰く、「NTTの分割問題」は、民営化した後に分割するというところで、複雑・困難にし



五十嵐三津雄 (S38・法)

再度お会いして親しく話をしたのは平成15年5月23日のホテルエドモントのエルム会・東京同窓会の会場で同窓会の理事長時代であった。懇親会の席上で柔道部の練習について話したところ、全て一致した。その後エルム会は解散、東京同窓会に一本化され、平成19年には東京駅に隣接するサピアタワー10階へ高田馬場から移動できたのも松田さんのお陰かと思っている。

管理体制が崩壊し、職場規律が緩み、ストライキを繰り返して、国民から怨嗟の声が上がっていた。国民から怨嗟の声を上げていたのは、正に松田さんの「百万人」といっても我行かん!」との強い信念のものに、飽くなき改革精神とアグレッシブな行動力が国鉄民営化へと導いたものと思う。また、一方、後輩の面倒見がよく、私の郵政次官就任の時もそう

松田さんを偲んで

松田先輩、本当に尊敬すべき先輩でした。永年、公私に渡り大変お世話になりました。ご冥福をお祈りいたします。

公の面では、27年前、JR東日本が民営化のため、株式公開し上場した際、大変お世話になり、松田先輩の優れた経営者としての一面を垣間見ることが出来ました。先輩はJR東日本の社長、小



村住直孝 (S38・経)

生は引受主幹事の野村證券法人担当役員でしたが、この上場は公開価格38万円に対し上場初値は60万円と大成功でした。その時の松田社長の自信に満ちた中にも安堵した表情は印象的でした。上場企業は、国内外の機関投資家に毎年会社説明会を社長自ら行うのが通例です。JR東日本も上場の翌年、松田社長と幹部役員がロンドンで説明会を行った際、小生も案内役で同行させていただきました。説明会の内容は当然大変充実したものでしたが、その後のビュッフェスタイルの昼食会では、社長自ら一人で外人投資家の中に入り、当時あまり得意とは言えない英語で堂々と真摯に質問に答え、これですっかり松田ファンになった投資家も多かったと思います。加えて、当時幹部の方々は、ロンドンの食事に慣れず、睡眠も取れず悩んでいる中、松田社長は良く食べ、良く飲み、良く眠り、閑があれば囲碁を打ち、エネルギーギッシュで、日本男児ここに在りという風情で、我社のスタッフも

であったが、後輩の昇進の時には、お祝いの場をセットするのみならず、後輩の業績の向上にも力を貸すことを惜しまなかった。松田さんの旅立は、私にとつて

松田昌士 大先輩を想う

柿田章 (S38・医) 北里大学名誉教授

「これからは基幹総合大学北大に観光学だよ」JR東日本を牽引されてきた松田氏の母校北大の経営協議会における発言である。平成16年4月から国立大学は法人化され、大学運営にもそれぞれが獨創性を持つ企画運営が求められることになった。新組織では総長以下運営の中心的役割を果たす経営協議会が設置された。これにはメンバーの半数は外部から任命されることになっていて、当時、中村睦男総長のもとで編成された法人化第1期の経営協議会で松田昌士先輩と一緒する機会を得た。以来、お会いするたびにいろいろお話を伺うことができた。



法人化に伴って、国立大学は、その運営に総長以下大変なご苦労のあった時期である。特徴ある大学院の編成など様々な新機軸の議論の中で、これからの我が国の主力産業にもなる観光業において、特に北海道大学はまずそのリーダーの育成機関を置くにふさわしい環境であると熱く述べられていた。大学院組織・高度観光学研究センター実現(平成18年度設置)には大変な貢献をされた。北大連合同窓会の立ち上げ、東京駅サピアタワーへの北大東京オフィス・東京同窓会事務局の移転、いずれも松田さんの熱い言葉を思い出させる。

「母校北大は同窓生一同で支えるべし」とお会いするたびに話されていた有言実行松田先輩の声を聞くことが叶わなくなったのは誠に寂しい。豪気ですとして繊細な松田昌士先輩のご冥福を心からお祈りいたします。

松田昌士氏を偲んで

数土文夫 (S39・工) JFEホールディングス株式会社名誉顧問



松田昌士氏の訃報に接しました。まことに大切な方を喪くしました。バブル崩壊、失われた時代にあつて、身を賭して、国、社会に貢献された、日本を代表する実業家・経営者であつたと思います。北大の先輩として心から敬服しております。残念の極みです。国鉄分割民営化への尽力、その後のJR東日本の社長・会長としての経営をはじめとして、日本の失われた時代にあつての孤軍奮闘ぶりは確とした国家観、歴史観、倫理観なしには語れることではないと思っております。

私は親しくしてもらったのは15年前からですが、大学の在り方、重要性についても、情熱をもって教えて戴きました。当時の佐伯浩総長とのコンビもよく、北大の同窓会を統一して連合同窓会としての大学の支援に大きく貢献されました。現在の北大校友会エルムの源流を築いたのはまさしく松田氏と佐伯先生であります。心に銘じております。松田氏はまた、その人生における出処進退も極めて潔いものでした。一流の教養人であつたと思います。冥福をお祈りします。

故松田昌士様を偲んで

樋口達夫 (S52・水産・修) 大塚ホールディングス株式会社代表取締役社長兼CEO

大先輩の松田昌士様が、5月19日に逝去されたという訃報に接し大変驚きました。ご家族の方々のお悲しみは如何許りかとお察し致

します。お通夜に参列し、松田昌士様と対面しました時、これまで経営者として多くのご教授を頂いたことが蘇り、改めて感謝の気持ち

ちでいっぱいになりました。松田様と最後にお会いしたのは、ユネスコの会を勇退された理事会ででした。その後の懇親会でも常に変わらず色々と御示唆頂いた事など、まさに昨日のように思い出されます。

私にとっての松田様との出会いは、2000年より大塚製薬の社長職を務め、経営者としての在り方を模索していた時でした。学部の大先輩であるアークスグループ(当時はラルズ)総帥、横山清社長に相談申しあげたところ、J R 東日本の松田昌士社長を囲んで北大・北海道関係の在京企業トップが集まる「エドモンド会」をご紹介頂き、参加のお許しをいただきました。

松田様は、J R 民営化への確固たる信念と実行力、その後グラウンドデザインと、経営者としてプロデューサーとしての非凡な才能を示されました。中でも、私が感銘を受けたことは、松田様の具体的な物事の判断基準、優先順位、そしてブレない姿勢に触れたことでもあります。「J R 東日本では、利用者の安全を最優先に考えている。安全対策も危険性の高そうなどころから対策していく。交通量や乗降客の多い首都圏に A T S な



ど集中投資を行っている。また、「運行中誰でも安全上おかしいなと感じたら、運行を停止することが出来る。」このような松田様の考え方に触れることで、当時改めて自分が社長職を務める企業の社会的責任を再認識させられました。これらは今でも私の大きな財産となっております。

松田様は、ご自分の本業以外にも、ユネスコ協会連盟、日本の伝統を守る会、日本社会人野球、そしてご出身地北海道へのご支援などの社会的活動を通じて幅広く社会貢献をされるとともに、我々北海道大学の後輩にとつて、あるべき「ROLE MODEL」を示していただきました。これは、現在、北大の学生のための人材育成として「新渡戸カレッジ」があるように、卒業後の社会における経営者育成の為に「松田カレッジ」かもしれない。北大が輩出した経営者には、松田様をはじめ数土さん、横山さん、そして多くの尊敬すべき先輩がおられます。北海道大学を縁として、これらの諸先輩方とお会いできたこと、特に松田昌士様にお会いできたことは、私にとって、大変な幸

1990年代、永田町に罷が跋扈していると与野党を問わず政治家に一目置かれた大物経済人であられたことを思い出します。私が海外から帰国した1995年冬に、同窓会を活性化し、大学を側面から支援するよう努力して欲しいというお話を頂戴し、爾来20数年に渡り東京同窓会での活動を続けることになりました。

度々お目にかかる機会に恵まれ、山手線に食堂車とバーを連ねて営業すれば、終電を気にしないで飲み続けられる話、駅内の一等地の活用等、奇想天外な事業をいかに実行するか等、話題に事欠かない時間を「一緒にさせていただきます」。北大愛校心・郷土愛は強烈で、2003年北海道知事選挙に落下



傘候補者であった高橋はるみ氏が立候補し当選した際、知事は開拓者精神を継承する道産子に限る、さもないと未来の北海道はないと発言されていました。その後の北海道の沈滞は目を覆うばかりでございます。北海道独立を主張した「北の夢」を私が出版した際には、開拓者精神についての素晴らしい随筆を寄稿していただきました。学問に豊かで芸術に敏感く博覧強記の先輩に、もうこれからお目にかかりご指導を受けることもできませんが、偉大なる先輩の姿が温容髯髯と日々思い浮かべ、良き伝統を継承し、後輩に伝える所存でございます。大物先輩のご逝去に際し、ご冥福をお祈りし、一文献上させていただきます。

生まれながらの経営者は私にとって松田さんでした

廣重勝彦 (S57・法) (二社)日本社債調査センター代表理事

立派な方ですが尊大ではない、近づき難い存在のようで実は、松田さんの方がわたしたちのことをよく見ておられる。国鉄民営化を巡る生臭い話さえも、松田さんが語れば壮大なスベクタクルになる。そんな人々を巻き込む魅力

を武器に時代を創った「人物」でした。以前、私が参加した日本証券アナリスト大会で、講演者として登壇された松田さんについて「J R の社長は東大出身じゃないの？」とひそひそ話をする輩

運でした。松田様のご冥福をお祈り申し上げますとともに、このような繋がりが

開拓者精神を受け継ぐ人

H I T 一般社団法人北海道総合研究調査会 理事長 五十嵐智嘉子 (S54・経)



「北海道観光の鍵は、道民のルーツにある。」20年も前になるが、松田さんから言われて着手した仕事がある。松田さんの意図は、「北海道に渡った先祖を持つ他県の人」に、先祖が来道し辿ってきた道を歩んでもらう、ということだった。明治20年前後に北海道の人口は急増するが、その多くは、地元で職がなくなった元武士や農家の三男坊で土地を継げない者だった。不安と希望が入り混じる中、未開の地を開拓した人たちが、北海道の基礎を築いてくれた、という思いがあった。私

を今後後輩にも受け継がれるように、心掛けて行きたいと思えます。合掌

松田昌士氏追悼

石川裕一 (S54・法) 株式会社ぶらう代表取締役社長

決断と実行を旗印に、強面の先輩でございましたが、後輩に対し

て親身の指導、愛情を注がれた先輩でもございました。

がいました。

政府に頼らない、既得権益にすがらない会社の変革(イノベーション)は、「決断力、行動力、貫徹するタフな意志」を持つ松田さんだからこそなし遂げられた偉業であるのに、旧泰然とした偏差値依存で経営



の本質を見抜けないバカなアナリストがいると苦笑したことが思い出されます。いま、新渡戸カレッジで学生に接する私は、松田さんのような人物が飛び出してくるよう精一杯努力する所存です。

松田先輩のご遺志に学ぶ

杉江和男 (S45・工・修) 北海道大学校友会エールム会長



校友会エールムの前身、連合同窓会は、15年前に松田昌士さんが提唱して40の学部・地域等同窓会を束ね発足しました。その意図は、前年に国立大学が法人化され、自主性・自律性・自己責任の下に経営を北海道大学自身に委ねられたことにあります。

は、組織の内部から官から民へ国鉄改革を実践された先輩の言葉であるからこそずっしりと重みを感じます。大学は、アカデミアとして新たな価値の創造を追求して進化させ、卒業生が働く民間は、国際的に ESG など価値を提供して成長します。この師弟の関係にある両者が、

念号において、「大学の質を高めないと北大といえども潰れてしまう。大学の存在をかけた競争が始まった。この危機感を OB も含めて共有する事から前途が拓ける」と言われたこと

お互いに支援し協働することを繰り返し言われた松田さんのご遺志を尊び、私たち卒業生が引き継ぐことだと思っています。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。(広報委員会)

経済的に困窮する北大生にご支援を!

2020年を迎えて以来、世界的に拡大して大きな災厄をもたらしている新型コロナウイルス感染症は、わが北大生の生活をも直撃しています。社会経済活動の停滞に伴って、家計支持者の収入やアルバイト収入が大きく減ってしまった、アルバイト先の仕事がなくなくなってしまった、札幌圏への移動ができなくなってしまった、留学先からの緊急帰国を余儀なくされた、母国への帰国や日本への再入国ができない、海外派遣の予定がキャンセルされてしまった、オン・キャンパ

この3月からの3か月間を振り返ってみると、必要な施策の検討や実施は、3月中旬の後期日程入学試験の中止に始まり、卒業式や入学式という大行事の中止を経て、新年度の学事暦の見直しと夏休みの短縮、学内外の重要行事の実施可能性の検討、オンライン授業体制への移行とその整備、学生生活のサポート体制の見直し、そして北大生への緊急の財政的支援策など、これまで経験もしなかった多くの事柄への対応に追われて来ました。これらはそれぞれに大学教育における根本的な発想の転換を迫るものであり、かつ緊急の対応を要するものでしたが、中でも重要であったのは、授業体制の変更、サポート体制の拡充、そして緊急の財政支援策の決定です。

授業体制の変更は世界的な規模で行われた大学教育の一大変革にもなっています。それはオンライン授業が基本となったことです。もちろんこれまでも e-learning の整備などオンライン授業方式の開拓は進んでいましたが、今般の変化はそれが例外ではなく原則となるという180度の転換です。教室や演習室に一堂に会して授業を行うことができなくなり、ICT、とりわけ汎用されているZoom を使ったライブ配信やオンデマンド方式の講義が主体となりました。演習や実習などは必要やむを得ない場合で、かつ感染防止策を徹底して講じた場合にのみ許可されています。当初は教員も学生も手探りであった状況で、現在ではある程度軌道に乗ったと言える

ものの、教室に集うことで得られる実あるコミュニケーションがないという大きな欠落があることも浮き彫りになって来ています。また、オンライン授業ではICTシステムに係る負担が増大するため、全学のシステム強化も必要で、多くの費用がかかっています。他に、授業のみならず、全学の種々の会議も今やほとんどがWebexなどのICT会議システムを用いたオンライン型のものになって、可能な限り省力して主要課題だけを審議・検討を進める形が追求されると共に、テレワークも広範に行われています。

授業のオンライン化に伴って生じた大きな課題は、学生のネットアクセス環境の整備でした。スマホが日常生活の必需品となり、パ

活の醍醐味を味わうのが難しい状態となっています。学生は毎日インターネットと向かい合って授業を受けるだけで、オン・キャンパスで友人を作る機会がないという孤絶した状況に置かれてしまいました。このことは特に4月からの新入生にとってはたいへん影響の大きいことです。先に触れた経済的苦境に加えて、このように友人関係も途切れることになった学生に関しては、そのメンタル・ケアも重要になりました。新生活における情報不足や友人ができないことへの不安は大きなものです。

授業体制の変更に伴って、授業の準備などオンライン授業方式の開拓は進んでいましたが、今般の変化はそれが例外ではなく原則となるという180度の転換です。教室や演習室に一堂に会して授業を行うことができなくなり、ICT、とりわけ汎用されているZoom を使ったライブ配信やオンデマンド方式の講義が主体となりました。演習や実習などは必要やむを得ない場合で、かつ感染防止策を徹底して講じた場合にのみ許可されています。当初は教員も学生も手探りであった状況で、現在ではある程度軌道に乗ったと言える

ので、これについては、昨年度に設置された学生相談総合センター(学生相談室・アクセスビリティ支援室・留学生支援室を統合した学生支援施設)や保健センターの活動を強化してもらい、相談体制を充実させて、学生の側面サポートも拡充しています。また今後は勉学内容に関するサポートも強化する必要がありますでしょう。ただ、これらの体制整備に伴い、関係の教職員の負担が増えていることも事実で、可能であればスタッフの増員もしたいところです。

これらの他に、より直接的で重

要な施策は、言うまでもなく、学生への財政的支援です。学部学生、大学院生、そして留学生それぞれに困難な事情があり、また国も学生支援機構からの緊急給付金や補正予算による授業料減免などの措置を漸次打ち出してきている中で、本学としても、前期分の授業料納付期限の延長(期限を5月末日から7月末日に2か月延長)、分納の許可(7・8月の2回に分けて納付を許可)などを講ずると共に、本学独自の緊急学修支援金の給付に取り組みました。そこでは、幸い北大フロンティア基金との連携の下に3億円規模の現金給付体制を準備することができ、学生の所属を問わず生活の困窮度に応じて10万円または5万円を支給する制度(今回の対応する第1回分と今後予想される感染の第2波等を予想した第2回分を区分)を組み立て、まず第1回の支給として申請を受け付け、6月中に給付を行うことができました。何となく、このように緊急援助は直接的な効果があると考えられるので、本学の手立てが

困窮した学生にとって少しでも役に立つことを願ってやまない次第です。その一方、今後のことも考えれば基金のいっそうの充実が急務だと言えます。

それにしても、今回のコロナ禍は世界規模で人間の社会生活万般に亘って根本的な発想の転換を迫るものとなり、大学の研究教育においても何から何まで再考を余儀なくさせています。この未曾有の経験を、学生の保護を軸としながら、本学の様々な領域の高度な知を結集していかに大きな知恵としてゆくことができるか、また大学そのものがこのような社会的危機に対していかに力を発揮してゆけるかが今問われつつあると思います。本学は研究教育活動を堅持し、この美しいキャンパスを守りながら、北大生の勉学生活を守るべく努めています。同窓生の皆様方も日々の生活における健康や安全の確保にご心配の多いことと拝察しますが、皆様のおかげで後輩である北大生にも暖かいご支援を何卒よろしくお願いいたします。



理事・副学長
長谷川 晃

No.T773 (2020/06/03)より

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急支援のお願い

新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延し、我が国でも感染症の脅威が続いており、大きな社会問題になっています。皆様におかれましては不安な日々をお過ごしのことと存じます。

このような状況において、本学学生の中には保護者の経済状況の悪化やアルバイト収入の減少により、学業の継続が難しくなる学生も生じております。

このため、北海道大学におきましては、国からの給付金や日本学生支援機構による奨学金の緊急支援に加え、本学独自の支援策として、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け生活が困窮している学生2,500人程度へ、困窮度に応じて、1人あたり5万円又は10万円の返済を要しない緊急学修支援金の支給を行うことといたしました。更に他の支援策も検討しております。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急支援の実施にあたりましては、既に北大フロンティア基金への寄附のお願いをしているところでございますが、同基金を活用して上記支援を行うことにより、本学の学生が経済的な理由により学業を断念することがないよう、改めて、皆様に広くご支援をお願いいたします。

皆様におかれましては、コロナウイルス感染症の影響により、種々ご負担の生じているところ重ねてのお願いとなり大変恐縮ですが、未来を支える若者のためにぜひご賛同くださいますようお願い申し上げます。

令和2年6月1日
北海道大学総長職務代理 笠原 正典
北海道大学校友会エルクム会長 杉江 和男



★寄付の方法や詳細については以下の URL をご覧ください。
<https://www.hokudai.ac.jp/fund/covid-19.html>

運動部OB OGの方々にご協力いただき、各クラブの近況を現役より寄稿してもらいました。(広報委員会)

●ハンドボール部

北大ハンド部は4年生4人、3年生6人、2年生8人の18人で活動を行っています。昨年10月に行われた秋季リーグ戦は男子1部4位に終わり、目標であるインカレ出場は果たせませんでした。今年度の春季リーグ戦や東日本インカレは中止が決定しており、秋季リーグ戦の開催は決定していません。部員が集まった練習が許可されていないため個々でランニングやトレーニングを行い、体力や筋力の維持に努めています。さらに、4月の授業開始時期が遅れた学部も多く、夏休みの練習も少な



くなるのが予想されます。他大の中には練習を再開しているところも多く、部員の中で焦りが日に日に大きくなっています。新入生の勧誘も例年のようなピラ配りや体験練習が行えないため、SNSを利用した情報発信やオンラインでの交流を行っています。幸いなことに、ハンド部は経験者が入部を決めていることが多いため、今年も例年と同じくらいの入部希望者がいます。

いつもハンドボール部を応援してくださりありがとうございます。普段の練習や大会、遠征先でOBの方々が応援に来てくださり力ももらっています。今後もよろしく願っています。

●アメリカンフットボール部
Big green

現在アメリカンフットボール部は2〜4年目の選手40名、スタッフ17名の総勢57名で活動しています。昨シーズンは、北海道1部リーグにおいて5勝0敗で1位となり、パインボウルへの出場権を獲得しました。パインボウルでは、東北リーグ1位の東北大学と戦

います。新歓は例年ではフラッグフットボールなどの体育館イベントや履修相談など幅広く行っていました。今年是对面が禁止されているので、SNSでのこまめな情報発



い、9-34という結果で東日本代表校決定戦への出場は叶いませんでした。

例年では、雪が解けた4月にグラウンド練習を始め、関東遠征やオープン戦を行っている頃ですが、今年度はコロナウイルスへの大学の対応で活動禁止となっていました。その中でも、活動再開に向けてオンラインでのトレーニングやミーティングを重ね、コミュニケーションをとりながらそれぞれ準備を続けています。

今年度は例年ではフラッグフットボールなどの体育館イベントや履修相談など幅広く行っていました。今年是对面が禁止されているので、SNSでのこまめな情報発

をする機会が本当に少ないです。

4年目の私としては、部活動最後の1年という特別な時間がどんな奪われており、悲しみ、歯がゆさ、など複雑な感情を持たざるを得ません。また、従来新入生勧誘活動はご飯会、体験会などを中心としていましたが、今年はそのもそも学校に行くこともできません。よってSNSによる新歓が主体となり、部員紹介をしたり、履修相談を受けたりしています。

今は試合が開催されることを祈るのみです。最後は笑って引退できるように、逆境にめげずに、活動再開できるように頑張らなければなりません。応援よろしくお願いします。



●野球部

昨年は春秋ともに2部リーグ優勝という成績を収めました。が、いづれも入替戦であと一歩及ばず一部復帰はかないませんでした。一部リーグを経験している選手も多くが引退していることもあり、今年には挑戦者という気持ちで一部昇格を目指しています。

現在野球部に在籍している部員数は、各学年に十数人いて部内合計で60人弱です。去年秋の終わりから秋野新監督、新チームの主宰として選出された高鳥主将を中心に新チームがスタートしています。

新型コロナウイルスの影響で部活はなかなか始まり(6月28日現在)、勧誘活動もSNSなどを駆使しながら行ってきました。特にZOOMアプリを使った遠隔でのオンライン説明会や、他の部活動との合同のオンライン説明会、さらに全国の大学野球部での広報企画に交じって、北大野球部も参加したりしました。その成果もあつてか既に10人を超える新入部員



●剣道部

●北海道大学剣道部は、現在3

年目9人、2年目15人の合計24人で活動しています。昨年度は全国学生大会、全日本大会ともに総合第三位の成績を収めています。新型コロナウイルスの影響で活動はできていませんが、部員をグループ分けして各グループごとにオンラインで筋トレなどを行っています。部員一同、忍耐力の鍛錬と捉え感染防止に努め、活動再開の際



信やZOOMを利用したオンラインイベントを企画し、試行錯誤を重ねています。

OB OGの方々に日頃から暖かいご声援とご支援を頂き、誠に感謝しております。今年度も、昨年より成長したBig greenを見てもらえるように、このような状況の中でも目標に向けて精進いたしますので、是非見守っていただけたらと思います。

●ホッケー部

北大ホッケー部女子部主将の高橋です。現在、4年が4人、3年が6人(うちマネージャー1人)、2年生が9人、計19人で活動しております。今年度はインカレ出場、七大会優勝、全国大会で得点、を目標として活動してきました。昨年の成績としては七大会準優勝、またインカレ予選で敗退するという大変悔しい結果となりました。

今年はこの雪辱を果たし去年の結果を上回る結果を残したいと強く思っていました。しかし、新型コロナウイルスの影響で大学側の指針により活動が全くできない状況が3月から6月末まで続いております。王座や道内大会の多くは中止が決定し、公式戦の数少ない機会が奪われています。また、例年行っていた春合宿(3月初めに予定していた)もできずホッケー

にけがをしないよう、ストレッチなども入念に行っています。

今年度の新入生の勧誘活動については、対面での勧誘を禁止されているため、TwitterなどのSNSを用いての活動にとどまっています。SNSでの勧誘は慣れないことでもあります。対面での勧誘についても、いつ解禁されるかはまだ分かりませんが、スムーズに開始できるように準備を進めています。

まだしばらく辛抱が続きますが、活動再開後には、また先輩方へ大会でのいい結果を報告できるように、部員一同頑張ることを頑張ります。今後とも変わらぬ応援のほどどうぞよろしくお願いいたします。

科学コミュニケーション による未来社会づくり

令和元年（2019年）10月から、国立研究開発法人科学技術振興機構日本科学未来館に入職し、科学コミュニケーション専門主任として、主に戦略立案業務や事業企画業務に携わっております。

私たちが市民がより良い未来を選択していく上で重要なことは、「エビデンスの無い思い込みや言説」に惑わされずに、客観的な科学情報に基づいて、自ら考え、行動していくこと」だと思えます。一方的なデータや技術の紹介ではなく、対話を通じて、市民の皆様と共により良い未来を考え、形にしていきたいという思いで任せられたミッションに取り組んでいます。

◆JTでのキャリアステップ

科学が好きで、生涯を通じて持続可能な社会の創出に貢献したいと考えてきました。北大に進学したのは実家から近いという理由が大きかったのですが、環境材料や生物に関わる領域を学びたく、学部では高分子学を、修士課程では分子生物学を専攻しました。幸いなことに研究室が扱っていたテーマが広く、無機化学についても触れることができ、これらを学んでいたことが縁で前職の日本たばこ

産業株式会社に入社し、たばこ中央研究所にて材料研究に従事することになりました。

平成6年の入社当時は吸い殻問題が惹起されており、学生時代に習得した知識や技術を「環境対応商材パーツの創出」や「たばこ規制枠組み条約への対応」という業務に微力ながら役立ててきました。研究開発の成果が商品に搭載され、その商品をお客様が購入する様を目のあたりにした時の感動は、製造業に従事する研究者として忘れ難いものでした。



冬の旧・理学部2号館横(1994年2月)

13年間の研究開発職の後、研究開発部門のマネジメント職を担ってきました。そのマネジメント業務の一つが、今回の転職につながるきっかけとなりました。それは、若手技術者が科学者としての視点で失い、製品開発のための駒にな



プロフィール／理学部高分子学科にて中田允夫准教授に師事し高分子溶液物理学を学ぶ(1992年3月卒業)。理学研究科高分子学専攻にて山岸皓彦教授に師事し分子生物学を学ぶ(1994年3月修了)。バドミントン部に所属。

もに、わかり易く伝えるという配慮が身につく、なによりも社会・未来に対して考える習慣が身についたことが成果だと思っています。

◆広がる活動フィールド

セカンドライフ以降は、一商材ではなく、広く社会資源に貢献対象を広げたい。その思いから、歳を節目としたい。その思いから、非常に大きなスケールでそれを実現し、私の思いと活動を大きく展開できる場と考え、昨年、日本科学未来館へ転職しました。

そして実際に働いてみると多様な科学領域・社会課題に対し、想像以上の規模で科学コミュニケーション活動が展開されており、この半年間は驚きと感動の連続でした。



日本科学未来館について

いま世界に起きていることを科学の視点から理解し、私たちがこれからどんな未来をつくっていくかをともに考え、語り合うサイエンスミュージアム。

【スローガン】科学がわかる、世界がかわる

【活動の3つの柱】

- ・科学を伝える～先端科学技術と社会を結ぶ場の創造
- ・人材を育てる～科学コミュニケーター育成
- ・つながりをつくる～ネットワークの形成による活動の展開



会議の様子(左端・著者)

化させていきたいと思っております。そのため戦略立案や事業企画が現在の私のミッションです。将来的にはこのような科学コミュニケーション活動が、次世代イノベーターの育成や投資層の構築につながること願っています。そして伝導される側の人々のことを考えることも重要です。

などを改めて認識することにもなりました。

◆次世代に架け橋として

2020年は日本科学未来館にとって、今後10年間の活動を計画する節目の年となります。科学技術創造立国のための「科学技術基本計画」第6期のスタートを迎えるにあたり、「科学技術を文化として捉え、社会に対する役割と未来の可能性について考え、語り合うための、すべての人々にひらかれた場」という未来館設立の理念を大事にしつつ、あらゆる人々が共生できる社会と世界の実現を目指すことができるよう、館員そして多様なステークホルダーとともに科学コミュニケーション活動を進

- ◎優れた地理的環境（都市の中心に近く、一か所に多様な学部が集り、多くの資源を保有）
- ◎北海道という場所自体、多くの課題の坩堝であり、多様な研究要素を持っている
- ◎地球規模で課題を抱えている時代ですが、業務連携が拡大する中で、世界中と瞬時につながることで、世界の中と瞬時に相談させたいと思っています。同じ学び舎で育った仲間と手を携え、共により良い未来づくりに勤しめる日を楽しみにしています。
- ◎私は4つの点で北海道大学を魅力的だと思っています。
- ◎チャレンジ精神が醸成される風土
- ◎社会に大きなネットワークがある

二足のわらじを履きこなす

高専における研究と教育、そして…

私は東京都八王子市にある国立の高等専門学校（高専）で教員をしています。専門分野は情報理論、特に、情報通信の基礎となる符号系列の生成やその応用に関するものです。普段は学生の教育と研究に携わっていますが、仕事を離れた分野でも後進の育成に尽力しています。そんな私の二重生活(?)をご紹介します。

◆祭に明け暮れた学生時代

私は1992年に工学部情報工学科を卒業、1997年に大学院工学研究科博士後期課程を修了しました。学部は情報工学科の第2期に当たります。現在の専門は情報理論や通信工学ですが、学生時代の研究テーマは脳の数理モデルであるニューラルネットワークの

学習理論で、今でいうAI（人工知能）の基礎のようなことをやっていた。当時、研究で使用していた計算機の処理速度は現在のスマートフォンよりも貧弱で、実験で使用していた神経回路網モデルの規模は、現在とは比べ物にならないくらい小さなものでした。近年のAIの隆盛を見るにつけ、

時代が計算速度と需要に追いついたという隔世の感を抱いています。



工学祭(1991年)

学生時代は、大学祭の運営に深く関わっていました。大学1、2年では教養祭の事務局で企画・運営に関わり、2年時には副委員長を務めていました。工学

部進学後の4年時には、当時ほとんど開催実績のなかった工学祭を復活させました。

今と比べると当時の大学祭は非常に自由で、酒類の販売はもとより、24時間オールナイトでの開催も実現していました。私も、大学1年のときにオールナイトで16ミリの映画上映を担当したのを覚えています。映画好きだった私にとっては、本当に幸せな時間でした。ただ、このような自由の裏側では、夜間の事故等を防ぐため、私たち学生が夜通し不寝番に立つということもしなければなりません。ただ、それも決して辛くありません。むしろ、私たちがむしろ非日常の時間と空間を楽しんでいました。これと比べると、現在全国の大学で実施されている大学祭、学園祭は味気ないものになってしまったと感じられます。よくよく考えればいい時代でした。

また、当時はバブル全盛期だったため、大学祭運営のための資金集めにも苦労しました。平成3年に開催した工学祭では、実

和されています。現在は、私の研究室を卒業した学生が北大に編入学し、さらに博士課程に進学したため、彼や彼の指導教員らと共同研究も進められています。

課外活動では、全国高専プログラミングコンテスト(プロコン)に出場する学生たちが集う「プロコンゼミ」の顧問になっていました。高専というNHKでも放映されるロボコンが有名ですが、プロコンも30年を超える歴史があります。本校はここ数年、上位入賞の常連校となっていて、昨年行われた大会では、設定された3つの部門すべてで最優秀賞を獲得するという史上初の完全制覇を成し遂げました。学生との距離が近く、こういった感動体験ができるのも大学ではなく高専だからこそ、と感じています。

◆オーストラリアとの不思議な縁

私は、2010年4月から1年間、在外研究員としてオーストラリアのメルボルン大学で研究活動を行ないました。現地の共同研究者とは今でも共同研究を続けており、毎年のように現地を訪れています。メルボルンは世界一住みやすい都市に何度も選ばれており、私も第二の故郷のように感じています。しかし、実は私とオース



東京工業高等専門学校 情報工学科・教授 小嶋 徹也 (H9・工学研究科修了)

質的に数名しかいなかった運営スタッフだけで、有名企業からの協賛金を集めることができ、その総額は数百万円に達しました。もちろん、祭運営のために有効に使わせていただきました。

このような祭好きと映画好きが高じて、1990年代後半には「さっぽろ映画祭リターンズ」というイベントの運営にも関わりました。これは市民の手による映画祭で、周防正行監督や台湾のホウ・シャオシェン監督など、国内外の著名な映画監督をゲストにお招きしたのがいい思い出です。この映画祭に関する当時の資料は、札幌市内にある「北の映像ミュージアム」でも閲覧することができます。

◆高専教員としての貌(かお)

私は1997年に学位を取得した後、東京・調布市にある電気通信大学の大学院で助手を務めました。その後、2001年に現在の



イマジンカップ(2012年、シドニー大会)準優勝チーム

トラリアとの接点はこれだけでなく、学生時代にまで遡ります。

大学院の修士1年のとき、名古屋で行なわれた国際会議のバンケットで、隣に座った研究者ご夫妻と話が花が咲きました。彼はオーストラリアの国防大学(Australian Defence Force Academy)から来た方でした。その後、手紙やメールのやりとりもするようになり、修士課程を修了した春休み、友人と2人でオーストラリア旅行を計画し、彼の自宅に訪問したことがありました。旅行直前にとある理由で友人が旅行に行けなくなったため、図らずも一人旅になってし

職場である東京工業高等専門学校(東京高専)に移りました。かれこれ19年が経とうとしています。現在は、情報工学科で授業や研究指導を担当する他、情報設備・情報セキュリティ担当の副校長として学校全体の運営にも関わっています。情報漏えい等のインシデントが起らないようにさまざまな対策を施していますが、万が一何かが発生してしまった場合には、私が事態収拾の現場指揮をとる立場にあります。携帯電話が鳴るとビクツとする生活が続いています。

冒頭にも述べたとおり、現在の研究テーマは情報通信のための符号理論で、私の最新の論文も、有限体という代数構造の上で通信や信号処理のために有用な符号を設計すると内容のものです。しかし、こういった数学を基礎とした理論的な研究テーマは、大学生よりも若い年代の高専生には難しすぎる側面もあるため、学生向けには別の研究テーマも設定しています。現在は、「情報ハイディング(Information hiding)」というテーマで学生指導をしています。情報ハイディングは、画像や音楽、映像などのデジタルコンテンツに、人間の視聴覚ではわからないような形で秘密のメッセージを埋め込む技術の総称です。例えば、著作権保護を目的とした電子透かし

や、コンテンツの不正コピーや不正配布を防止する電子指紋といった技術が情報ハイディングの応用例として知られています。

私の研究室では、こういった権利保護の目的ではなく、情報通信の手段として情報ハイディング技術を応用しています。例えば、防災サイレンに災害情報を埋め込んでスピーカから鳴動させ、電波を用いずに音響信号だけで情報伝達を行なう防災放送システムを開発したり、秘密のメッセージを用いて音楽の一要素を構成し、BGMをスピーカから放送することで情報伝達を実現する技術を提案したりしています。映像を用いた研究も行なっており、最近では、音楽や映像に関心をもつ学生たちが意欲的に研究に取り組んでくれています。

高専に異動した当初は、このような研究テーマの設定や仕事の時間配分がうまく行かず、ストレスを感じることも少なくありませんでした。さすがに19年も経った今ではうまく歯車が回るようになってきたように思います。高専における学生指導で不満があるとすれば、大学院生、特にドクターコースの学生指導ができないことが挙げられます。しかし、最近では学外の大学院生を共同指導するよう機会もあり、その不満も少し緩

まいりましたが、首都のキャンベラ郊外にあった彼の自宅にも滞在でき、大学のキャンパスでは偶然開催されていたお祭りや、戦車のパレードを見ることもできました。こんなところで大学祭とも縁があるとは思いませんでした。2010年のメルボルン滞在中にも、実に16年ぶりに彼の自宅を訪れ、ご家族と交流を深めることができました。また2012年、米マイクロソフト社が主催する国際的プログラミングコンテスト「イマジンカップ」で、私が共同指導した東京高専のチームが日本代表に選出され、世界大会に出場することになりました。このときの開催都市がオーストラリアのシドニーで、私も引率教員として大会に参加しました。現地では深刻なトラブルも発生しましたが、本校のチームはソフトウェア開発部門で準優勝を勝ち取ることができました。この記録はイマジンカップの日本代表としては現在でも史上最高の成果です。

特徴から歴史、フードとのペアリング、商業的サンプルの紹介に至るまで、徹底的に解説されています。著者はジョシユア・バーンズティンという米国のジャーナリストで、その語り口は軽妙洒落であり、ユーモアやダジャレ、サブカルチャーの要素などがふんだんに盛り込まれています。(翻訳に当たって、私の頭をもっとも悩ませたのもこの点に尽きるわけですが;)このため、300ページを超えるボリュームの割には、スラスラと楽しく読めるものになっています。興味のある方は、ぜひ書店やアマゾン等ネットの販売サイトで探していただければ幸いです。ちなみに念のため触れておきますが、私には本来の専門分野である情報理論の著書もあります。まさに二足のわらじです。

◆二足のわらじが紡いだネットワーク

現在、新型コロナウイルス感染症の影響で、世界中の方々の生活が従来のものとは一変しています。私の第二の故郷、オーストラリアでも、大都市圏を中心にクラスターが発生し、先の見えない状況が続いているようです。私自身も、現在でも週の半分は在宅勤務で、授業も自宅から遠隔で実施、学内外の会議や学会参加もオンライン

りスポーツになっており、オナーご夫妻とは現在も交流が続いています。彼らと知り合ったきっかけは、ビアテイスターという資格を取得していた私が、メルボルンのビア事情について日本のメールマガジンに投稿したことにある。このオナーのパートナーが日本人で、彼女が私の投稿を読んだことから、現地での交流が始まりました。このエピソードは、次にお話しする私の二足目のわらじに深く関わっています。

◆国際的ビール審査員としての貌(かお)

学生時代からのビール好きが高じて、私は2013年に日本地ビール協会主催のセミナーを受講し、ビアジャッジの資格を取得しました。それ以来現在まで、米国



ビール審査会での様子



のワールド・ビアカップ、ドイツのヨーロッパ・ビアスターを始め、オーストラリア、シンガポール、ポーランド、メキシコなど、世界各国で開催される国際的ビール審査会で審査員を務めてきました。また現在では、日本地ビール協会が主催するアジア最大の国際審査会であるインターナショナル・ビアカップで審査委員長を務めている他、同協会が主催するビアテイスターセミナーやビアジャッジセミナーという資格認定セミナーで講師も務めており、後進の指導にも力を注いでいます。ビール審査員の責務は単に美味いか、まずいかを判定することではありません。審査対象となったサンプルをテイastingすることとで、そのビールの長所を讃えるのはもちろんのこと、問題があった場合には、その原因が醸造技術

翻訳本:「コンプリート・ビア・コース〜真のビア・ギークになるための12講」(楽工社)

にあるのか、その後の保管や流通にあるのか、あるいは時間経過や酸化によるものなのか、外観や香り、味、ボディなどといった要素から理論的に特定し、説明することが求められています。海外にいる私のジャッジ仲間の一人が、「ビアジャッジの仕事は探偵の仕事に酷似している」と語ったことがありましたが、まさに言い得て妙だと思います。ビールの製造者は、出品料を支払ってこのような審査会にエントリーします。言い換えれば、彼らはその出品料で審査員からの客観的な官能評価の結果を買っているわけです。その結果が製品の品質向上や、さらにはマーケティングにも活用されることを考えると、ビール、特に規模の小さいクラフトビールの普及に対する審査員の責任は極めて重大であると言えるでしょう。

さて、こんな裏の貌(かお) (?) を持つ私ですが、昨年、ビールに関する書籍を上梓しました。この本は、「コンプリート・ビア・コース〜真のビア・ギークになるための12講」(楽工社)というタイトルで、米国で販売十万余部を超えた本の日本語版です。本の中では、世界中のさまざまなビアスタイルについて、その

インで、これまでとはまったく異なる環境で仕事を続けています。長年、私も参加してきた情報理論の国内最大の会議である「情報理論とその応用シンポジウム」は、ほぼ毎年、温泉地での合宿形式で実施されてきました。今年、私が実行委員長となり、12月に北海道の登別温泉で開催予定でしたが、残念ながら中止の決断をすることとなりました。シンポジウムとしても43年の歴史の中で初めて中止で、まさに断腸の思いでの決断でした。一方、世界中のビール審査会やイベントも、中止や延期、開催形態の変更を余儀なくされています。

このような状況を嘆くのは簡単ですが、実は私には少々楽観的に捉えているところがあります。規模の大小はあるものの、私たちの人生はさまざまな危機や困難の連続であると思います。しかし、そういういった困難を何とか乗り越えて、私たちは今日を生きているわけです。前述の「情報理論とその応用シンポジウム」についても、私は前向きに考えています。感染症の影響が一掃されない中でも、どのような方法をとれば、従来に限りなく近い形態での開催が可能か、いま一度じっくりと考えて、2年後以降のリベンジを決意したところからです。

こういった困難を乗り越えるには、一人の力ではどうにもなりません。私がこの状況下でも物事を楽観的に考えている背景には、さまざまな人々との「つながり」があると思っています。実際、高専教員としての仕事の傍ら、ビールの世界にも深く真剣に取り組む中で、タイプの異なるさまざまな人々との交流があり、これが私の血となり肉となつていくという実感があります。仮に今の状況を乗り越えることができたとしても、この先さらなる変化や危機に晒されることも否定はできません。しかし、このような多くの友人たちとのネットワークや彼らと交わした会話、多種多様な経験が、これからも自分を支えてくれるだろうと私は信じています。これまで支えてくれた友人たちの、そして同窓の皆様のために、乾杯!



インターナショナル・ビアカップ2018の表彰式

輝き続ける北海道のために 変改する道行政の最前線を担う



北海道東京事務所の自席。右は部下の園部光平さん（H25経）

◆幅広いフィールドへの出向

平成3年に北大経済学部を卒業し（入学は昭和61年。小樽潮陵高校出身）、北海道庁に入庁。爾來たくさんの上司、同僚、そして関係の企業・機関・団体等の皆様に助けられながら道行政に携わり、いつの間にか30年になるうとしています。

◆ワンチームで ミッションに立ち向かう

平成29年8月、課長職となった私に与えられた仕事のテーマは民泊でした。

留萌（振興局）、苫小牧（民間出向）での勤務以外は本庁勤務が続いていましたが、昨年6月、久しぶりに転勤となり東京事務所によって参りました。道外暮らしは夫婦そろって初めてなので、休日は都内各所はもとより本州各地を夫婦で巡り歩いています（目下、コロナ禍により中断）。

これまで、ものづくり・食・観光産業の振興や農業基盤整備、医師確保対策、地域振興、庁内政策調整など幅広く道行政に携わってきました。

当時の状況としては、民泊が国内各地で急速に拡大し、観光客の多様化する宿泊ニーズの受け皿として期待される一方で、安全・衛生面や騒音・ゴミ出しといった生活面でのトラブル等が発生しており、国会でも大きな議論がなされ、マスコミでも大きく報道されていました。

同年6月、民泊の一定のルールを定め健全な普及を図るための法律「住宅宿泊事業法」が、国会で制定されました（施行令等の公布は同年10月）。

同法には、都道府県等は民泊に起因する生活環境の悪化防止の必要があるときは、合理的な限度において条例を定め、民泊実施の区域・期間を制限できる旨の規定が盛り込まれていました。

各都道府県等ではそれへの対応が急がれました。法の施行は翌年

北海道東京事務所 観光・企業誘致課長
安彦 史朗（H3・経）



有識者会議（民泊条例検討）／平成29年10月
テーブル奥から2人目が本人、5人目は高橋知事（当時）

6月です。「時間がない」と誰もが思ったはず。道議会では多数の質問の中で条例制定が求められ、高橋知事（当時）は早急に条例の検討を進めることを表明しました。8月、その検討等を行うための専掌ラインが政策局内に設けられ、そこに私を含む5名が配属されたのです。

法の施行に間に合うように条例を制定するためには、翌年2月開会の道議会に条例案を上程しなければなりません。ロードマップ・作業スケジュールを作ると、種々の作業・調整、ステップ等が並び、まさに綱渡りの感でした。

先行事例がない中であって胆力といったものも求められる仕事でしたが、5名が力を結集しつつ、上司の助力や観光・衛生・法制等の庁内関連部門の協力をたくさんいただきながら、半年間、関連業界や地域、国との幾度の意見交換や、有識者会議の開催、市町村長からの意見聴取、パブリックコメント（道内はもとより道外からも大学教授、弁護士等も含め大変多くのご意見をいただきました）、そして道議会での多数の議論などを通じて、論点・ロジックを整理し、

体より先行している、その検討内容は全国のモデルになると報道がされるようになりました。

事例、他自治体では具体的な対応が道より進んでいないよう、秋頃からは道の取り組みや検討内容を参考にしたいとの他自治体からの問い合わせが連日続きました。

このことについて私が当時率直に感じたことは（甚だ手前味噌で恐縮ですが）、条例検討の専門部署を作った点において道はどの自治体よりも卓越しているということでした。他自治体では観光振興部門か宿泊業許可部門（衛生部門）のどちらかが担当しましたし、そのどちらが担当するかなかなか決められない自治体が多いようでした。唯一道だけが別の部門（政策局）重要政策の企画立案を担当）に専掌ラインを設け、我々5名はそれに特化して全力で当たると集められたのです。

平成30年第1回定例道議会にて条例案は審議の上可決されました。私たちは並



「北海道とつながるカフェ」（北海道移住に興味をお持ちの首都圏の方々に交流していただく場）／令和2年1月
左端前から2人目が本人

行して、告示や逐条解説、事業者向け手引き、苦情相談コールセンター等の整備、関係機関との協力体制、庁内執行体制の構築等も行い、以来、住民・観光客の安全・安心の確保を第一とした適正な民泊の推進に注力しました。

ところで、苦業を共にした部下の半数は北大卒でしたし、上司（政策局長）もそうでした。道庁

はやはり北大卒の職員がたいへん多いです。すこし前に自分が所属したラインはトップから最若手職員までオール北大卒でした。多い

ばっかりに同窓意識はともすればほとんど希薄という感じもありますが、とはいえ北大出身だと聞くとやはり嬉しくなります。また、

◆北海道の優位性や 独自性を生かした経済・ 産業の活性化に向けて

現在は東京事務所にて企業誘致等を担当しています。

近年、災害や人材確保などに対する企業の多様なリスク対応等により、製造拠点はもとよりIT開発拠点、サテライトオフィス、本社機能などを本道に進出させる動きが見られます。

目下、コロナ禍への対応としてテレワークが一気に広がりましたが、これからはウィズ・アフターコロナの中でビジネススタイル、働き方が大きく変わっていくことも考えられます。

東京の仕事を北海道のサテライトオフィスでどんどんこなしていきたいとの企業経営者の声も聞かれます。企業を取り巻く環境の変化を踏まえつつ、本道の素晴らしい食や豊富なエネルギー資源、冷涼な気候、北海道ブランドの人気、首都圏などとの同時被災リスクの低さなどをアピールしながら、企業個々のニーズに応じたきめ細やかな提案を行うなど、『可能性の大地』北海道への進出につ

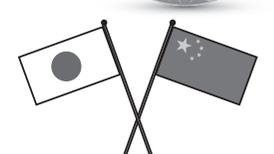


政策局民泊ラインのメンバー／平成30年3月
後列左から3人目が本人、2人目は大森賢司主査（現観光局民泊係長・平成17年法卒（奥さんは平成17年法卒・現石狩振興局地域政策課主査）、前列中央は奈良華織主幹（現道総研建築研究本部安全性能部長・平成9年大学院（工）卒）

集められたのです。平成30年第1回定例道議会にて条例案は審議の上可決されました。私たちは並

行して、告示や逐条解説、事業者向け手引き、苦情相談コールセンター等の整備、関係機関との協力体制、庁内執行体制の構築等も行い、以来、住民・観光客の安全・安心の確保を第一とした適正な民泊の推進に注力しました。

東京の仕事を北海道のサテライトオフィスでどんどんこなしていきたいとの企業経営者の声も聞かれます。企業を取り巻く環境の変化を踏まえつつ、本道の素晴らしい食や豊富なエネルギー資源、冷涼な気候、北海道ブランドの人気、首都圏などとの同時被災リスクの低さなどをアピールしながら、企業個々のニーズに応じたきめ細やかな提案を行うなど、『可能性の大地』北海道への進出につ



世界のアカデミアを歩む

植物遺伝情報発現の仕組みを解き明かし、農業生産を増大し、来たるべく食糧不足を解決するため、日本、アメリカ、ドイツ、中国のアカデミアを風の吹くままに歩む。

● 遺伝子好きな阿呆だった 札幌南高校時代

サッカーに明け暮れ、校内で麻雀をしては説教を受け、テストは赤点だが北大の入試は名前を書けば受かると思っていた阿呆であった。当然一浪した。昔から遺伝子が生命を形作る源であるということに非常に興味があったが、DNAという分子の羅列がどうやって解読され、細胞を作り、体を形づくり、はたまた生殖や人間の思考へと繋がるのか想像出来なかった。北大理学部の生物科学科へ行けばそれがわかると思い入学した。

● 研究の基礎を学んだ 北海道大学時代

1995年春、遺伝子から生命への神秘に迫れると意気揚々と入学したが、いきなりつまずいた。高校時代英語赤点大魔王であり、大学入試では英語を捨てた私は1300ページある英語で書かれた専門教科書を見て絶望したが、

その夏、救世主 (同じ教科書の 日本語版)に救 われた。私は遺 伝子とは何か、 DNA配列であ る遺伝子からR NAに転写さ れ、タンパク質 に翻訳され、そ して細胞を形 作っていくとい う、生命現象を 分子レベルで理 解することに夢 中になった。北 海道大学に入れば自分の疑問に答 えてくれるはずだったが、知れば 知るほどにわかっていないという ことがわかった。このことに落胆 した反面、野心をそそられた。

疑問は自分で解き明かそうと大学院進学を決めた。植物を使っ
てDNAからRNA情報が転写さ
れる(セントラルドグマの最初の
ステップ)仕組みを調べている研

中華農業大学 教授
津田賢一
1999年 北海道大学理学部生物科学科卒
2001年 北海道大学大学院地球環境科学研究科 修士
2004年 北海道大学大学院地球環境科学研究科 博士



アメリカ・ミネソタ大学時代の研究所

研究室だった。思ったほどの成果は上げられなかったが研究の基礎をしっかりと学べたと思う。
博士の学位を取得すると博士研究員(ポスドク)という立場で給料をもらって研究し、さらに経験を積むのがアカデミアの道だった。教授に相談したらこう答えて返ってきた「君はアメリカ向きだし向こうの平均的ポスドクより優秀だからアメリカへ行きなさい」。これが「君はアメリカ向きだし向こうのポスドクより相当優秀だよ」に脳内変換され自信を得た。

● 植物微生物相互作用にはまった アメリカ・ミネソタ大学時代

ミネソタの冬は寒いからということで2005年春にミネソタへ渡った。ここで現在の研究の中心になっている植物と微生物の相互作用の研究を始めた。
植物と微生物がそれぞれの分子を交換し、時には戦い、時には助



ドイツ・マックスプランク植物育種学研究所にて

の広大な大地とダイナミックな環境を大いに満喫していた。ポスドク6年目にさしかかる頃、自分で研究室を運営してみたいという野心が芽生えていた。そんな時、隣の研究室の教授が興奮しながら一枚の紙を見せてくれた。それはドイツ・ケルンにあるマックスプランク植物育種学研究所の独立研究グループリーダーの募集要項だった。マックスプランク学術振興協会は有名な物理学者であるマックス・プランクに因んで名付けられた、ドイツ国内外に約80の研究所を持つ研究機関であり、ドイツ連邦政府と州政府の資金で運営されている。

あのアインシュタインも所属し、前身組織を含め33人のノーベル賞受賞者を輩出しているいわば世界最高峰の研究機関である。そんなところに自分が雇われるはずがないと言った私に、彼女は「これは貴方のための募集よ。チャンスを逃してはいけない」と励まし

● 研究を確立した ドイツ・マックスプランク 植物育種学研究所時代

2011年12月にドイツ・ケルンへ渡った。紛う事なき夢の研究機関だった。周囲は植物の研究では誰もが知っている憧れの研究者達。彼らと日常的に議論をし研究を進めるのは純粋な快楽だった。研究費に悩まされることもなく、優秀な部下が集まり、研究室運営も上手いき、成果も上がった。自分が本当に研究したいことをしたいように出来、まさにドリームジョブであった。この間に子供が3人生まれ、子育てと研究に没頭し、7年くらい脇目もふらず突っ走った。

公私に充実してはいたが自分のキャリアをぼんやりと考えていた頃、中国・武漢にある華中農業大学で行われた植物・微生物相互作用に関する国際会議に呼ばれて発表する機会があった。発表が



華中農業大学の研究所

終わって壇上を降りると、その国際会議の主催者である中国人教授が近寄ってきて、ちよっと話さなにかと声をかけられた。私の趣味は中国古典や古代中国の歴史であり、三国志の武将の話などで大いに盛り上がった。うちに来たらしいじゃない？と声をかけられたが冗談だと思った。翌日、うちに来ないか？と再び切り出された。今度は冗談ではなさそうだが社交辞令だと思っていた。その翌日、これが君のポジションで、家で、給料で、研究費で、福利厚生だ。私の妻のポジションも用意し、子供の学校も任せてくれ、うちの大学に来て欲しいというオファーをもらった。急展開の三顧の礼だ。諸



華中農業大学での講義風景

が解明されれば農業への応用も大いに期待される。植物の生長を助ける微生物を使った農業革命だ。武漢は100近い大学があり人口の10%ほどは大学生という学園都市だ。街の中心部などは日本の大都市と変わらない中に昭和の佇まいが混在している感じ。華中農業大学は国家重点大学に指定されている総合大学で特に植物科学や農学の研究が盛んである。湖に囲まれており、その中に講義棟や研究所が建ち並び、研究農地があり、学生・教員の住居地区があり、付属幼稚園・小学校・中学校がある。スーパーやコンビニもあり、大学の食堂が10以上あり、多くのレストランやショップが建ち並び

商店街のような場所もある。まるで城郭都市のようだ。中国ではオンラインショッピングが便利で大学の外に出る必要性はほとんどない。武漢の物価は日本の半分程度である。研究設備は日本や欧米と変わりなく研究費は日本よりも潤沢である。何でも出来る、どこまでも上つていける期待感はある魅力的だ。政治を除けば自由度はかなり高い国でもある。中国版アメリカンドリームが確かに感じられる。他人に良くも悪くも気を遣わず、多様性が高く、出る杭は打つのはなく伸ばす文化は私にとって心地よい。日本で生まれ育ち北大にお世話になり、アメリカ、ドイツ、中国のアカデミアを風の吹くままに歩んでいる。世界における経験は視野を広げ人間としての器を大きくしてくれた。また、世界における違いを違いとして認識出来るようになったのは世界を歩んだからだ。名前を挙げられないほど様々な場所で様々な人にお世話になった。この場を借りて感謝したい。

華中農業大学津田研究グループでは修士・博士課程の学生、博士研究員、助教、准教授、教授を募集している。興味のある方は (tsuda@mail.hzau.edu.cn) まで連絡されたい。

南フランスのように開放的な店内で、美味しい料理とワインを。



店名の「オー・プロヴァンソー」は、私に元気を与えてくれた、南フランスの心地よい空気感から。その名のとおり、南フランスのように開放的な店内で、美味しい料理とワインがあれば、気の合う仲間と楽しい会話がきつと弾むはず。

オーナーシェフ 中野寿雄



Aux provencaux Restaurant
www.aux-provencaux.co.jp

Aux provencaux オー・プロヴァンソー

〒102-0093 東京都千代田区平河町1-3-9 TEL:03-3239-0818

地下鉄半蔵門線半蔵門駅1番出口徒歩3分 地下鉄有楽町線麹町駅徒歩2分

【営業時間】11:30~14:00(L.O.) 17:30~21:00(L.O.) / 日曜定休(祝日不定休)



黄鶴楼からの武漢の街並み

風の吹くままに 中国・華中農業大学

2019年9月に家族そろって赴任した。バタバタと住居、研究室のセットアップなどをしていくうちにこの新型コロナウイルス騒動が始まった。あれよあれよという間に東京に匹敵する1100万人都市である武漢が都市封鎖された。日本を含め各国から武漢退避のチャーター機が来る中、自分は武漢に残ることを決めた。日本人であるという理由だけで部下や同僚を残して自分だけ逃げられない、そして日本人が武漢に残ることで、しこりのある日中関係の改善になるかもしれないとも思った。武漢に残ったことで多くの取材を受け、多くの人がメッセージを送らったり、手作りの作品が送られてきたりした。日本人は義を大切にすることが出来たかなと思う。中国や日本を含めた世界のニュースでは武漢は死の街となり1100万人が犠牲に、という悲壮感が漂っていたが、自分の周りでは悲壮感よりは危機に際した連帯感が生まれている感じがした。品薄ではあれどスーパーは開いていて、いざとなればその辺に生えている野菜や木の実を食べればよい。大学は魚が釣れる湖に囲まれているのを見たこともあったし、牛の鳴き声が聞こえてきたこともあった。全く生存の心配はしていなかった。日本の友人達からマスクや食料などの救援物資がたくさん送られてきて、大学や中国人とシェアしたら、なんて日本人は優しいのだという評判を得た。



武漢に残ったことに感動した中国人が送ってくれた作品

私は植物が好きだ。但し愛でたい訳ではなく、植物の中で遺伝きたりした。日本人は義を大切にすることが出来たかなと思う。中国や日本を含めた世界のニュースでは武漢は死の街となり1100万人が犠牲に、という悲壮感が漂っていたが、自分の周りでは悲壮感よりは危機に際した連帯感が生まれている感じがした。品薄ではあれどスーパーは開いていて、いざとなればその辺に生えている野菜や木の実を食べればよい。大学は魚が釣れる湖に囲まれているのを見たこともあったし、牛の鳴き声が聞こえてきたこともあった。全く生存の心配はしていなかった。日本の友人達からマスクや食料などの救援物資がたくさん送られてきて、大学や中国人とシェアしたら、なんて日本人は優しいのだという評判を得た。



華中農業大学メインストリート

情報がどうやって発現し、外的な環境変化にどう対応しているかが知りたい。植物は自然界で様々なストレスを受ける。物理ストレスだったり生物ストレスだったりする。動かない植物がどのようににこうしたストレスに分子レベルで対処しているのかわからない(生命現象は結局は分子の絡み合いで動いている)。だから知りたい。誰も教えてくれないし、調べてもわからないから自分で研究する。面白いことに微生物は植物にとって病気を引き起こす敵でありながら、植物の生存に必須な存在でもある。植物がこの味方と敵をどう見分け、敵を排除し、味方を手助けしているのか。この仕組み

スウェーデン教員を目指す

50か国旅したバックパッカーが辿り着いた国

「北大受けてみたら？のびのびして合っていると思うよ。」私が北大への進学を決めたきっかけは、兄の一言がきっかけでした。当時東北大にいた兄は、部活で北海道に度々遠征しており、北大にも仲間がたくさんいたのです。学

校が好きだったことから、教育学部へ入学。大学時代は旅とダンスに明け暮れました。

◎世界に目を向けた大学時代

初めて行ったインドに魅了され、バックパッカーとして世界を旅し始めたのも大学時代。ヒッチハイクで道内を旅したこともあります。幼い頃、読書を通して世界に憧れを抱いていた私は、本の中の世界が目の前に広がっていることにただただ感激し、その後50か国以上の国を回りました。また、ダンスを通して多くの友人や音楽に出会いました。言葉は通じなくてもダンスを通してコミュニケーションをとることができる、それを肌で感じたのも大学の時



バックパッカー時代の写真(エジプト・ピラミッド)

だ感懐し、その後50か国以上の国を回りました。また、ダンスを通して多くの友人や音楽に出会いました。言葉は通じなくてもダンスを通してコミュニケーションをとることができる、それを肌で感じたのも大学の時

堀井 靖代 (H3・教育・修)

です。学部卒業後は修士へ進み、教育臨床心理学、特に発達障がいへの理解を深めました。人の行動、言動の背景を多角的に読み取るという姿勢は、北大時代に培った大切な財産です。修士の時、研究のフィールドだった小学校での子ども達との出会いを基に、その後教師の道を選びました。石狩市の教育委員会で働きながら通信教育で小学校の教員免許を取得し、横浜で教員として働き始めました。

◎仕事の葛藤

教員6年目、だいぶ仕事に慣れてきた時、このまま教員として働き続けていようか、という疑問がわき始めました。教員の仕事は天職だと思っていたのですが、仕事量の多さには正直辟易していたからです。特に高学年を担当すると、子どもの放課後のトラブルも増え、7時出勤、休憩もなく気付くと19時、でもまだ明

日の授業の準備もできていないという毎日。休日出勤もザラでした。夏はプール掃除、冬はインフルエンザ防止の消毒、教室のワックスがけ、早朝クラブの監督、会議、研修、問題対応。体力にだけは自信があった私も、1年目2年目は声を失い、授業ができなくなりました。帯状疱疹、インフルエンザを初めて経験した時もこの時です。社会人になっても続いていたダンスもだんだんと遠のいていた時、回覧で回ってきた一つの記事に目を奪われました。そこには、世界の中でも突出した日本の教員の労働時間の長さ、他国との働き方の違いが書かれていました。

労働時間が短いのに生産性が高いヨーロッパ諸国。仕事の後、家族と過ごす時間も取ることができる。当時、育児中の同僚は、18時に退勤し、夜中の2時3時にもう一度学校に戻ってきて仕事をすると、という信じられない働き方をしていました。彼女を見ていると、仕事と育児、家事の両立は想像もつかない離れ業のように感じました。また、そうした教員の長時間労働が子ども達にプラスに働いているとはどうしても考えられませんでした。日本の教育はこのままではいいのか、世界はどうなっているのか、という思いに駆られ、1年の休職、そして当時学力世界

トップであったフィンランドへ足を踏み入れることを決めたのです。

◎フィンランドの教育

横浜で5年以上務めた職員は、自己開発研修と呼ばれる研究のための休暇をとる権利があります。その制度を利用し、4月から1年間の留学を決めました。英語力を伸ばすため、9月の始業式まではシアトルで語学を学びました。

フィンランドの現地校では、日本の文化や言語を教える授業を担当し、小学校から中学校まで全ての学年を回りました。授業のない時は各クラスに観察・アシスタントとして入り、常に子どもと一緒に過ごしました。半年の滞在で私が痛感したことは、フィンランドの教育と日本の教育の間には、一人の教員の努力では変えられない大きな壁がある、ということです。

フィンランドでは、教員は医者や弁護士と同じような専門性と地位のある職業とみなされており、修士課程の取得が不可欠です。大学を終えた後すぐに担任をもつことはできません。アシスタントとして教室に入り、何年かの経験を積んだ後によりやく学級担任がもてる、という流れが一般的です。そうした専門性の高い先生方を、子ども当たり日本の2倍3倍にもあたるほどの数を雇用できる教育

予算が確保されていました。1クラス内の児童数は約20人。日本の半分ほどにあたる数です。小学校1年生から取り出し授業が行われており、国語、算数など子どもが苦手分野に合わせたマンツーマン指導が別室で行われます。驚いたのはそれだけではありません。フィンランドの学校はクラスが半分に分けられ、半分の児童は8時登校12時下校、もう半分の児童は9時登校13時下校、という風に時間差で登校するようになっていました。そうすることで、8時から9時、12時から13時の間は少人数で授業を行うことができま

す。手芸や工作、算数など、個人指導の必要な科目は、よりきめ細かい指導ができるように工夫されていたのです。個に合わせた指導を行う、落ちこぼれを作らない、フィンランドの教育制度から一人ひとりを大切に

にする強い姿勢を感じました。そうした確固とした教育制度が、子ども達の学力の高さにつながっているのです。また、学校と保護者をつなぐ通信システムが充実しており、問題があったり、宿題が出ていなかったりした時は、保護者にメールですぐに知らせが届くようになっていました。もちろんよい行動をした時にも知らせが届きます。

教員と保護者が連携しやすい環境が整っており、子どもたちも迂闊なことはできません。疑問を抱いていた教員の労働時間の長さについては、調べた情報の通り、日本とは比べ物にならないほどの差がありました。午後14時、15時には先生方がぼつぼつと帰宅し始め、17時には誰もいない職員室で私一人だけ明日の教材を用意している、という状況も稀ではありませんでした。フィンランドには、無理なく仕事と生活を両立できる社会システムが構築されていたのです。

◎結婚、スウェーデン移住

なんとか日本を変えたい、と意気込んでいたものの、帰国後は日々



ウブサラ駅の隣にある旧駅舎、今は改装されてカフェ



カフェが並ぶ川沿い

の業務に追われ、何もできない自分に無力感を感じることもありました。復職後、3年教員として働きましたが、スウェーデン人の彼と結婚し、2019年6月にスウェーデンに移住。こちらに来て1年が経ちました。スウェーデンというと、ノーベル賞、IKEA、H&M、ボルボ、バイキングなどでしょうか。FIKA(フィーカ)という言葉も有名なスウェーデン語の一つです。FIKAに対する英語の直接的な訳はなく、「コーヒーを飲みながら団欒する」ことを指します。

こちらではこのFIKAをととても大切にしており、たとえ仕事でも欠かすことはありません。コーヒーと軽食、スイーツの組み合わせ



せと共におしゃべりを楽しむ、大切なコミュニケーションの手段なのです。

私の住んでいるウプサラは、ストックホルムから電車で40分ほどのところにある、北欧最古のウプサラ大学がある学生の都市です。人口は17万人程度、スウェーデンでは4番目に大きい都市なのですが、とにかく街中に自然があふれています。

私の住居の庭には野ウサギが住んでいたり、公園ではハリネズミやリスを目にしたりと、動物達を目にする機会も少なくありません。こちらでの日々の過ごし方はとにかく素朴です。カフェのテラス席でのんびりおしゃべりする、夏には森の中でベリーやきのこをつむ、暑い日にはとにかく水辺で水浴びをして涼む、などなど……

暖かくなり、公園では水着姿で



たとは信じられないほど完璧だったのです。「店は品物が一番おいしくなった時に捨ててしまうんだよね」と完熟のメロンを出してくれた彼の言葉は未だに忘れられません。彼の記事を読むと、いかに食料が無駄に廃棄されているかがわかります。また、そこで言及している衣類廃棄も注目されていることの一つで、その記事は、昨年新聞に掲載され、大きな反響をよびました。

◎ 大学時代を思う

卒業して10年以上たちますが、こちらで暮らしていると、北大で過ごした6年間に思いを巡らすことがあります。北大での日々、出会いがどれほど私の人生にインパクトを与えたかは伝えきれません。北大の開放的な空気は、自分が未知の世界に足を踏み入れる時、いつも背中を押してくれました。そして、大学で出会った仲間は、自分の感情にまっすぐに向き合う私を受け止め、励まし、賞賛してくれました。大学時代に重ねた様々な挑戦があったからこそ、自分の好きなこと、大切にしたいことが浮き彫りになったのだと思います。あの頃自分を支えてくれたダンス・音楽・旅（アウトドア）、この3つがあればスウェーデンの長い冬も乗り切る自信が私にはあります。

読書を楽しむ学生をよく目にするようになったきました。太陽が出ている限り外ですごそうと、皆短い夏を楽しんでいます。24時間営業のお店やコンビニはほとんどいいいほどありません。外食は高いので、日本ほど一般的ではなく、フルーツやスナック、お弁当などを用意し、公園でのんびりピクニックをしたり、BBQをしたりして、とにかく外で過ごします。北海道で登山やスノーボードなど、数々のアウトドアを満喫してきた私には天国のような毎日です。

◎ スウェーデンの風土と文化

そんなスウェーデンですが、実は、世界一友達作りにくい国だともいわれています。スウェーデンの方はパーソナルスペースがわりと広いと言われています。コロナウイルスの流行でソーシャルディスタンスをとるように推奨されていた時も、「僕らにとっては、通常と変わらないよね」と冗談を言い合うほどでした。

親しい友達がいれば十分、そのため積極的に新しい人と関わり合うことはしません。長く暗い冬や5人に1人は鬱経験者という現実ゆえに、全く異なる文化から来た移民者の中にはスウェーデンのことが好きではない人も少なくありません。実際は、日本で報道され

また、心理学で「心」について学んだ経験は、海外生活、多文化の中で他者を理解するための礎となりました。横浜での教員時代、「隣の町にいく感覚で国をまたぐよね」と同僚によく笑われていまし



北欧で一番古い大聖堂

ているようなきらきらとしたポジティブな面だけではないのです。

ただ、男性の育児・家事参加率が高いのは事実です。ミッドサマーのパーティーでは、女性陣が野原に座っておしゃべりをしながら花飾りを作っている中、男性陣が全てパーティーの料理を用意していました。街中でも公園でもベビーカーを押したり、子どもの手をひいたりしている男性を当たり前のように目にします。ベビーカーを押しながらランニングをしているお父さんもよく見かけます。

北欧は環境大国として知られています。一人一人の環境への意識が高い印象を受けます。例えば、私の周りでは、ほぼ半分の友

だが、本当にどの国でも人の本質は変わらないと私は思っています。

◎ 小学校教員を目指す

今、私は、スウェーデン語を学びながら翻訳の仕事に携わり、毎週土曜日には日本人

補修校で教壇に立っています。補習校の事務所に初めて訪れた時、ノーベル賞を受賞した日本の方々の色紙がずらりと壁に並んでいて驚きました。ストックホルムならではの特権ですが、授賞式のある12月には、受賞者の方が補習校に講演に来てくださることもあるそうです。

学校の友達(年齢も国籍もバラバラで、母国では教育や医療に従事していた方々。本人は左から2人目)



また有難いことに、スウェーデンの学校は、語学学校、成人教育を含む全ての教育が無料です。先日フィンランドのサンナ首相が「北欧にはアメリカよりもアメリカンドリームが叶いやすい環境が整っている」と言われていましたが、まさに所得に関係な

人が環境負荷の軽減、または動物愛護の観点からベジタリアンとして生活していたり、肉や魚をできるだけ控えたりしています。また、生物学に知識のある友人達は、海洋汚染の影響で魚介類も避けています。この傾向は特に10代や20代の女子に多く、友人は「もうこの世代のトレンドと言ってもいいと思う」と話していました。私も彼女の意見に同感で、彼女達は、「ベジタリアン」や「ヴィーガン」であることを一つのファッションのように楽しんでいるように感じます。スウェーデンは多国籍で他宗教の方も多いため、こうした食生活のスタイルを選択しやすいのかもしれない。

日本人の感覚だととても不思議ですが、少し若い世代の方や環境活動家など、特に生活が貧窮しているわけではない方の中で、廃棄物を集めて生活している方がいます。そうした中の一りで友人のジャーナリストは、8年前から賞味期限が切れた物やパッケージが傷ついた物をごみ処理場から集めて生活をし、家族を養っています。一度夕食に招待されていた時、彼が廃棄物で生活しているのを知っていた私は、さすがに身構えました。ところが、彼が作ってくれた料理は、それらが廃棄物であつ

く、誰もが平等に教育を受け、挑戦できる土台がこちらにはあります。

コロナ問題の前は、退職した方がボランティアで語学を教える場所があり、半年で日常会話程度をスウェーデン語で話せるようになりました。こちらで仕事を得るのはとても難しいのですが、教育と医療職は深刻な人手不足で、移民を含め多くの人を教育・医療現場に、と国も対策を講じている最中です。「慣れない環境で大変でしょう」とよく言われますが、逆に私は、新しく自分の可能性を広げ、第二の人生を歩むこのチャンスにわくわくしています。

今の私の目標は、スウェーデンの現地で教員として働くことです。もちろんネイティブ並の語学力が必要となるため、長く険しい道ですが、学生に戻ったことで気付くこともたくさんあります。初心に戻り、目の前の道を一步一步進んで行こうと思っています。

そして、いずれは日本の教育を立て直す一助になりたい、そんな思いも心の中に秘めています。大それた夢ですが、「大志を抱く」ことのできる環境だからこそ前向きになれるのだと感謝しています。学びと経験を日本の教育に還元すること、これからの私の大きな目標になりそうです。



北大YHクラブ50周年 旅を愛する仲間が集まり

北大YHクラブOB
宮城賢治
(S47・経済)

1 ユースホステルとは

そもそもユースホステル（YOUTH HOSTEL以下YHと略称）とは、国内はもちろん海外からの若者が一人でも安全に旅を楽しむように全国各地に開設された宿泊施設です。19世紀にドイツで生まれ、100年以上の歴史を持つ世界有数の「旅の宿」ネットワークで、我が国には1951年アメリカから導入され、世界で80か国地域に約4000カ所、日本に約220カ所、北海道に35カ

日時・令和元年10月19日(土)17時 会場・札幌グランドホテル

所存在します。部屋は男女別相部屋で、宿泊料金は3000円前後（2食付きで5000円前後）と経済的です。初対面の旅人同士が相部屋で過ごし、情報交換、交流を深められるサービス、体験プログラム等を提供する仕組みの会員制の宿で、最近では会員以外の方も利用できるようになり、相部屋でない個室対応のユースゲストハウスも生まれ、国内外から訪れる一層多くの旅人に活用されています。

とを目指しています。
(1)クラブ設立当時

さて、遡ること51年前、1969年5月、北大植物園に旅を愛好する1年生から3年生の11人が集結し、北大YHクラブを設立。当時は全国で既存の価値観、社会体制を否定する学園紛争が多発、1969年は、北大にもその荒波が押し寄せ、クラブ設立の数日後には学生による大学本部封鎖、更



現役学生たち(2020年7月支笏湖YH)

2 北大YHの歴史

北大YHクラブは、YHの他にテント利用等様々の宿を利用し旅を楽しむサークルです。日頃のクラブ活動は、ほぼ毎月のように旅、ハイキングやキャンプ活動を行い、例会では旅の情報収集、知識習得等を行う場を設け、入学まで一人旅の経験が無かった者が、自立して一人旅を積極的にこなせるレベルに成長するまで育成するこ



1969年5月(植物園での創設メンバー)

にその後約半年にわたる学園封鎖で授業中止が相次ぎました。実は、我がサークルも既存の旅サークル内での活動方針の相違から生じた内紛で、11人が退部独立し誕生したものです。
当時、部室を持たないサークルが活用したのがクラ館集会所で、毎週木曜日に定期的に集まり、サークル活動、終わると流れるのはクラ館横の雀荘「みずき（現在は蕎麦屋）」、正門前の喫茶店「左文字」、北大病院近くの消防署前にある焼き鳥屋「モツラ」等でした。

最初の年に会報誌「ばよか（アイヌ語で旅を意味する）」創刊、夏合宿は利尻島、礼文島を訪ね、例会では道内YHの運営状況アンケート調査等の活動を行い、クラブの活動実績を積み上げていきました。

2年目に入ると、部員数は一気に倍増、他大学YHクラブの活動内容調査、支笏湖北側原生林の中にひっそりと佇むオコタンペ湖のごみ汚染解決のために、清掃ハ



40周年記念パーティー(2009年7月6日)

イキングを行うなどの活動を加えました。その後は、YHでのヘルパー経験、道内YH一週ツアーのバス添乗員等の活動をし、YH活動を活発化、1974年、クラブ

創立50周年を記念し、それまでの活動を振り返る記念誌「ばよか20号」を発行。
(2)その後の歴史
クラブ創設から50年間の歴史を語るには、残念なことに当クラブには未だ正式OB会組織が無く、拠り所となる資料(クラブ史)が無いため、活動歴を語る事ができないことをお詫びします。

部員達のその後は、旅の幹旋や人材育成を生涯の仕事にする者、YHを建てて経営に携わった者、高齢になり働きながら東海道五十三次を完歩し、更に中山道、中央道を歩く者も複数います。
有志ではありませんが、30周年40周年といった記念行事を行ってきたので、それらについて画像で紹介させていただきます。

(3)設立40周年記念行事
画像
2009年7月、40周年記念行事では、部員達の行きつけであったモツラの女将家族を



40周年記念パーティー(モツラ女将と)

記念パーティーに招待、大いに盛り上がりました。

3 現在の現役生のクラブ活動状況

最近の部員数は、各学年10人前後の部員数で、引き続きアウトドア系の活動を中心に、4月の新入生歓迎行事(旅行、ジンプ等)に始まり、5月には新人歓迎会として支笏湖まで50キロの道のりを徒歩突破しクラブへの定着に結びつけるといった活動、年間を通じての道内各地を巡るキャンプ、ホステリングに明け暮れています。

4 設立50周年記念祝賀会(2019年10月)

2019年春、有志数人が50周年行事発起人となり、OB会名簿



50周年パーティー

が無い中、ひたすら現役部員と協力しながら、夫々のクラブ人脈をもとに芋蔓式で参加を呼び掛け祝賀会開催にこぎつけました。

10月19日(土)16時を過ぎると、札幌グランドホテル東館3階会場受付に懐かしい顔ぶれが続々と現れ、17時、約90人の参加者が席に着き、進行係の平野弘昭氏(1972年入学)の司会により祝賀会がスタート。

開会挨拶に入る前に、不幸にも若くして亡くなられたYHクラブメンバーへの黙祷。祝賀会発起人を代表し1968年入学宮城賢治の開会挨拶、続けて1967年入学、初代部長仙波久幸氏の発声による乾杯で和やかに祝宴は開宴。

テーブル順に出席者が一言ずつの自己紹介を行い、続けて懐かしい映像紹介に。トップバッターとして創設当初メンバーの大塚保則氏(1969年入学)がクラブ創設前に北大植物園でクラブ立上



著者(ニセコ山頂にて) 2019.3月

→ 仲間の店応援!



工藤 卓 (くどうたくし)さん 余市生まれ、札幌西高卒、水産

浦田駅西口のサンロードアーケードを歩いていくと2分ほどの所にある。本物の魚介の味は是非ともご賞味あれ!

「自分が食べたい料理がある・自分が行きたい店」をコンセプトに4年前に開いたお店「余市」。北海道産の新鮮な魚介類を食べたい時に訪れたいお店だ。

店主の工藤さんは札幌西高出身で、水産学部に入學。パブル期前の経済が上り調子の頃、学生の身ながら、講義そっちのけで居酒屋の店長を任せられ、ついには大手フランチャイズの店舗開発で、全国を飛び回っていた異色の経歴。

【ヒトサラ】公式情報 <https://hitosara.com/0006130407/>

北海道産魚介類の店
海鮮食堂余市



海鮮食堂 余市
TEL.03-3734-0411
東京都大田区西蒲田7-65-9 第3青木ビル1F
【アクセス】JR線・東急多摩川線「蒲田駅」西口より「サンロードアーケード」に入ると徒歩2分
【営業時間】11:30~26:00 (日祝火は12時~24時) 時々火休



森山りな (もりやまりな)さん 岩見沢市出身、H2法

お店は小岩駅からフラワーロードを300m位進み、メガネ屋さんを左折したところにある。お店のフェースブックもチェック!

扱い難くて手間もかかるけど、風味が全く違うからと、北海道産小麦と無添加生地にこだわって、美味しいパンを作り続けている。

様に美味しい焼きたてパンを提供できているとか。お店は今年で7年目。設立前はお二人ともパン屋とは全く違う仕事をしていて、小岩に人脈があったわけでもないのに、何から何まで一からのスタート。開店以来、ずっと新しいメニューとこだわりのパン作りをチャレンジしている。お店イチオシは焼きカレーパン。ひと口味わってみる価値あり!

【公式Facebook】
<https://www.facebook.com/443325022474148/>

焼きたてパン工房
もりーな



焼きたてパン工房 もりーな
TEL.03-6458-0255
東京都江戸川区南小岩7-18-14 橋本ビル 101
【アクセス】JR総武線「小岩駅」より350m
【営業時間】9:00~18:00 (売り切れ次第CLOSE) 月曜日・火曜日定休 (月曜日が祝日の場合は営業)



予定時間はあつという間に過ぎ、最後は恒例の「都ぞ弥生」。前口上を福田俊行氏(1986年)が担い、唄は1番のみとなったが、会場が一つの輪になり全員で肩を組んで斉唱。高齢メンバーもひたすら歌詞を思い出しながら、かつての蛮声の片鱗を見せていた。

つづがなく都ぞ弥生が終わり、半田幸雄氏(1969年)の締め挨拶で、お開きに。こうして大宴会は、かつて度々体験した突発事故、想定外トラブルもなくあつという間に終了。

大半のメンバーは、二次会会場

を薄野に移し、個室カラオケ「エルカーサ」では、幹事が旧交を温めやすくするために個室3室を確保。「年長、年中、年少」の世代別に集まり部屋ごとに、唄に昔話に明け暮れ、そして薄野の夜は更けていった。

現在は新型コロナウィルス蔓延の影から、様々な制約、道県境越えの移動自粛ムード、三密防止のための会食等の制限もあり、50周年が運良く昨年で良かったと痛感します。今回の反省から、次の60周年に向けOB会の組織化、卒業生名簿整備、発起人団の世代交代を必須のものとして自覚した次第です。



50周年パーティー(都ぞ弥生斉唱)

みんなで「つくる」を大切に

北海道日建設計は、日建設計のグループ会社として1956年に誕生しました。これまで、北海道の人と風土に根ざした「生活環境や社会環境づくり」を目的に、建物をつくるだけでなく、多くの人々との交流をもとに、みんなで「つくる」を実践してきました。これからも、環境に配慮した美しい景観の創出をはじめ、人々が「生きる場」としての街づくり・空間づくりに取り組んでいきます。

代表取締役社長 久保田 克己 (工・昭59・建)

NIKKEN
EXPERIENCE, INTEGRATED

株式会社 北海道日建設計

札幌市中央区大通西8-2住友商事・フカミヤ大通ビル
TEL: 011-241-9530 FAX: 011-261-7673
URL: <http://www.h-nikken.co.jp>



中西克彦(なかにしかつひこ)さん 札幌南高卒、H22経

お店は神田神保町駅が最寄りだが、九段下駅からも近く、靖国通りに面した路面店。美味しい肉が食べたくなったら一度は立寄ってみたいお店。

中西さんの夢は、一次産品の生産から販売までの一気通貫ビジネス。総合会社から転身しキャリアを積んでいる。

ブランド牛として有名な十勝ハーブ牛を使った「MONMOM」。牛の成長に合わせてハーブを与え、長い期間をかけてじっくり育てた良質な肉がお店の一番のウリ。

1階店舗はホルモン鉄板焼き、2階店舗は焼肉と、同じ店舗で業態が分かれているのがユニーク。

運営会社の㈱ノベルズは上士幌に広大な牧場を持ち、牛の生産から飼育の他、酪農事業や食品加工・販売までを一貫して行っている。

そのノベルズの直営一号店がこのお店で、責任者として中西さんが昨秋からジョインしている。



十勝ハーブ牛ホルモン MONMOM(モンモン)
TEL.03-6261-2766
東京都千代田区神田神保町3-3-2 J'z Tower 1・2F

【アクセス】
地下鉄「神保町駅」A1出口より徒歩2分
地下鉄「九段下駅」6番出口より徒歩3分

【営業時間】
11:30~14:30(L.O.14:00)
17:00~22:00(L.O.21:30)

北大OB・OGならワンドリンクサービス! 店員にお伝えください。



【ホームページ】<https://monmom.jp/>



田部井淳(たべいあつし)さん 栃木県足利市出身、H13工・情報処理・修

恵比寿駅が最寄りだが、ガーデンプレイスを抜けた住宅地の一角にたまたまお店なので、道に迷う可能性は大きい。来店時はサイトで地図を確認するなど、予め準備して出かける目印。

絶品。具の量も食べ応え十分。

札幌発祥ながらすっかり市民権を得たスープカレーだが、TV等で紹介されカレー好きにもちよつと知られたお店・シャナイア。

大手IT企業に就職したものの、こどもの頃からの料理好きが捨てがたく、思い切つて転身。料理学校やフランス料理店で修行の

この店のスープカレーは薬膳入り特徴。通信講座や薬膳レストランで学び、シャナイア風にアレンジしたもの。スープカレーは、チキン・エビ・野菜を組み合わせたメニューでどれも絶品。具の量も食べ応え十分。

恵比寿駅が最寄りだが、ガーデンプレイスを抜けた住宅地の一角にたまたまお店なので、道に迷う可能性は大きい。来店時はサイトで地図を確認するなど、予め準備して出かける目印。



薬膳スープカレー・シャナイア
TEL.03-3442-3962
東京都目黒区三田1-5-5
【アクセス】
JR線・日比谷線「恵比寿駅」東口より徒歩約10分
【営業時間】イートイン11:30~15:00(L.O.14:15)
17:00~21:00(L.O.20:00)
日曜日・月曜日定休
※テイクアウトについてはホームページを参照。



【ホームページ】<http://www.nekoaji.net/shania/>

東京基準より北海道基準、北の夢。

ぷらう

代表取締役社長 石川 裕一

株式会社 ぷらう
〒060-0063
北海道札幌市中央区南三条西4丁目12-1 アルシュビル8階
TEL: 011-219-2223 FAX: 011-219-2885



高木直人(たかぎなおと)さん 千歳市出身、札幌南高卒、H4工・合化・修

木さんに相談すれば、お好みのテイストのビールを教えてください。ベルギービール初心者でも十分に楽しめる。JR田町駅や都営三田線田町駅から徒歩5分の所。お気軽にどうぞ。

かつてドイツ系企業で働いていた時、ヨーロッパ出張の際によくベルギービールを楽しむ機会があり、ビール好きが高じて自分のお店を持つようになったとか。

興味を持ち始めた頃に、スクーリングに通い、ビアテイスターやベルギービールのプロフェッショナルの資格を取った。

店内は木をベースに落ち着いた空間で、ゆっくり寛げる雰囲気。現在は、ベルギービールの樽生6種類、ボトルは100種類以上を用意している。

マスターの高木さんに相談すれば、お好みのテイストのビールを教えてください。ベルギービール初心者でも十分に楽しめる。JR田町駅や都営三田線田町駅から徒歩5分の所。お気軽にどうぞ。



常備100種類以上のベルギービール専門店
Comme la Gueuze(コム・ラ・グーズ)
TEL03-6435-2463
東京都港区芝5-24-16 菊池ビル2F
【アクセス】
JR線「田町駅」より徒歩5分
【営業時間】
18:00~25:00
(日・祝休み)



【公式Facebook】<https://www.facebook.com/comme.la.gueuze>

2020年(令和2年)
残暑お見舞い
申し上げます。

北大東京同窓会
役員一同・事務局

会長 横田 浩 (経・60)
事務局 廣重 晃以 (法・55)

納谷 峻徳

(工・38・冶金)

JFEホールディングス株式会社

名誉顧問
数土 文夫

(工・39・冶金)

石山 喬

(工・42・冶金)

岡 隆次郎

(工・42・冶金)

梅原ビルディング株式会社

代表
梅原 誠一郎

(工・44・冶金・修)

はまなす会
(北大工学部機械工学科東京同窓会)

顧問
仲 裕

(工・47・機)

セントラルコンサルタント株式会社

相談役
馬場 直俊

(工・47・土木)

日本コムシス株式会社

相談役
伊東 則昭

(工・52・電子・修)

JFEエンジニアリング株式会社

総合研究所長
櫻井 雅昭

(工・56・金属)

有限会社ケースオフィス

代表取締役
川添 公貴

(工・56・応化)

株式会社エネット

代表取締役社長
川越 祐司

(工・57・電子・修)

味の素株式会社

代表取締役副社長執行役員
福士 博司

(工・59・石化・修)

北水同窓会
東京支部一同

支部長 樋口 達夫 (水・50・食品・修)
副支部長 細見 典男 (水・48・食品)
副支部長 吉田 克典 (水・H2・食品)

東京フラテ会

会長 畠山 昌則 (医・50)

ワイエム・エス株式会社

代表取締役
島田 久

(工・61・金属)

北海道大学歯学部同窓会
関東支部

支部長
横田 秀一

(歯・60)

尾瀬沼畔長蔵小屋
尾瀬ヶ原第二長蔵小屋

代表取締役
平野 太郎

(工・H3・衛生)

森 和弘

(歯・H1)

新日本相撲甚句会

理事
師範代
野呂 忠一

北海道三笠市ふるさと応援大使 (薬・39)

北海道大学獣医学部同窓会
関東支部

支部長
鷺野 弘明

(獣・53・修)

公益財団法人交通協力会

常務理事
石堂 正信

(法・44)

株式会社BlueMeme

常勤監査役
杉山 和彦

(法・45)

公益社団法人北海道倶楽部
副理事長兼 常務理事・事務局長
DG株式会社
代表取締役
本間 修

(法・45)

社会医療法人
財団大和会
武蔵村山病院

院長 鹿取 正道 (医・H3)

北大法学部

東京同窓会 役員一同

会長 小口 正範 (法・53)
事務局長 大野 峻 (法・H18)

北大経済学部

東京同窓会 役員一同

会長 永松 昌一 (経・57)
事務局長 菅 誠 (経・52)

一般社団法人 札幌農学同窓会

東京支部 役員一同

理事長 梶谷 辰哉 (農・50・林学)
副理事長 坂倉 雅夫 (農・48・農工)
副理事長 櫻田 巧 (農・58・農経)

株式会社明治屋

代表取締役社長

松沢 幸一

(農・48・農化修)

株式会社デイリーテクノ

代表取締役社長・農学博士

富田 守

(農・36・畜産)

株式会社ららう
代表取締役

石川 裕一

(法・54)

一般社団法人
日本社債調査センター

代表理事

廣重 勝彦

(法・57)

株式会社町村農場

代表取締役

町村 均

(法・60)

JFEスチール株式会社

常務執行役員

堀江 亮介

(法・61)

株式会社サクセスボード

代表取締役社長

萱野 聡

(法・62)

北海道大学大学院法学研究科

研究科長・法学部長

池田 清治

北海道大学法学部同窓会

会長

佐々木 亮子

(法・47)

北海道大学法学部同窓会

副会長 兼 事務局長

高橋 了

(法・47)

株式会社中央コンピューターシステム

代表取締役社長

櫻田 巧

(農・58・農経)

一般社団法人緑の循環認証会議

専務理事 事務局長

梶谷 辰哉

(農・50・林学)

グループ代表

瀬戸山 洋介

(農・H12・農工)

名刺広告は1コマ、
5千円で、皆様にご協力をいただいています。

新入会員

(令和2年1月)、敬称略
木内友亮(工R2)、青田純平(工H11)

訃報

令和2年1月以降にご逝去の
お知らせをいただいた方々。
敬称略

長島一敏(歯H1)、佐藤安弘(教
育S35)、松崎貞夫(法S31)、
田中範(理S28)、多勢隆(工
S29)、松田昌士(法・修S36)

三晃堂三井印店

代表

三井 晃一

(農・H1・農学)

デニワ株式会社

代表取締役社長

八田 和之

(農・H1・農工)

月島食品工業株式会社
代表取締役社長

戸田 信之

(農・51・農化)

北海道大学の近況

(2019年冬～2020年春)

北海道大学総務企画部広報課

令和元年度 医学教育等関係業務功労者表彰に本学関係者から2氏

本年度の医学教育等関係業務功労者として、本学から北海道大学病院看護部副看護師長・棚田郁子氏、医学研究院技術支援部臨床検査技師・津田弓子氏が表彰され、11月15日(金)、文部科学省3階講堂において、表彰式が行われました。



北海道大学病院看護部副看護師長 棚田郁子氏



医学研究院技術支援部臨床検査技師 津田ゆみ子氏

この表彰は、文部科学省が毎年、医学または歯学に関する教育・研究若しくは患者診療等の補助的業務に従事し、顕著な功労のあった方々に対して行うものです。各氏の表彰にあたっての感想を紹介します。

(総務企画部広報課)

11月15日(金)、文部科学省にて、医学教育等関係業務功労者表彰式に出席させていただきました。105名の方たちと共に表彰を受けて参りました。身に余る賞をいただき深く感謝申し上げます。

私は、平成4年の入職から28年間勤務させていただきました。スタートは当時の北大病院登別分院でした。平成8年に閉院となるまで、地域に根ざした糖尿病治療とリハビリの施設でしたが、ここでの看護経験は、新たな糖尿病治療

はもとより、病状・体力に合わせたトラック歩行やハイキング等の屋外運動療法をとおして、運動が血糖値に及ぼす影響を患者自身が体験するための支援であり、それまでの自身の糖尿病看護の認識を大きく変えるものでした。自覚症状が乏しく進行する糖尿病だからこそ結果を数値で可視化し、患者さんと共有する、またその意味を分かりやすく伝え理解を促す支援の重要性を学びました。

その後、内科II病棟の7年間で、患者さんが具体的な目標を持ち主体的に行動できる様に、熱心に関わる同僚らの姿があり、患者さんの望ましい行動の変化を誰よりも喜び、チームで共有してまいりました。医師・薬剤師・栄養士・検査技師・理学療法士・歯科衛生士など、各職種の専門性の高さに強く刺激され、糖尿病療養指導士、フットケアの資格を取得し、医科外来ナースセンターへ異動後はこれらの実践を重ね、充実した日々

となりました。後に「糖尿病ケアサポートチーム」として院内活動を行うようになりましたが、チームメンバーは何時も自分をブラッシュアップさせてくれる大きな存在でした。そして、患者さんが葛藤しながら投げかけてくれた糖尿病への思いの数々が、何にも代え難い私の学びとなりました。最後になりましたが、これまでご指導いただきました諸先輩、歴代の看護部長、副看護部長、看護師長、同僚の皆様から感謝申し上げます。

(北海道大学病院)

この度は医学教育等関係業務功労者として表彰を賜り、身に余る榮譽と深く感謝申し上げます。表彰にあたり、ご推薦、ご尽力いただきました関係各位の皆様にご厚くお礼申し上げます。

28年前に医学部内科学第三講座に採用された時は、臨床の現場で患者の命に向き合う医師の姿を目の当たりにし、出来るだけ要望に応えようと思いました。治験や保険点数のない特殊検査に関する業務、そしてたくさん臨床サンプリングの管理など。医局、病棟、外

来、検査室を飛び回る毎日でした。しかし、自分のスキルに限られているため、思うようにいかないことも多くありました。そのような中、何度も先生や同僚に助けられ、励まされたことは忘れられません。

次に医歯学総合研究棟中央研究部門に配属されました。この部門は医学研究院と歯学研究院における共同研究施設で、一つの教室では維持するのが難しい実験機器を多数設置しています。それらの機器を管理運用するのが仕事ですが、機器が故障して研究者の実験が滞ることが一番つらいです。また、分析装置は日々、開発が進み

ASEANハノイオフィス開所式および北海道大学交流デー等のイベントを開催

2019年7月にベトナム国家大学ハノイ校科学大学内にASEANハノイオフィスを開設したことにより、同大学にてオフィス開所式を開催した他、北海道大学交

新しくなっていますので、勉強が欠かせないのですが、未熟なため反省することも多いです。それでも担当の分析装置などを通じて、様々な教室の研究者の方とお話することは、刺激を受けますし、充実した時間となっています。最後にありますが、私がこれまで仕事を続けることが出来、この功労者表彰を受賞出来ましたのは、講座、部門の先生、職員の方々の温かいお力添えがあつてのものと、深く感謝申し上げます。これを励みに今後も業務の遂行に精進してまいります。ありがとうございました。

(医学部)

流デー、ベトナム北部同窓会設立記念会合、及び北海道大学アンバサダー委嘱式を開催しました。(国際部国際連携課)

総務企画部広報課

北海道大学交流デー(ベトナム国家大学ハノイ校科学大学)および、ASEANハノイオフィス開所式を開催

本学では、第3期中期計画やスーパードグローバル大学創成支援事業構想調書において、多くの外国人留学生が見込まれるASEA

N地域との交流の推進を掲げており、2019年7月にベトナム国家大学ハノイ校科学大学内に、同大学と本学との



ベトナム国家大学ハノイ校科学大学 (NGUYEN TienGiang) 副

共同オフィスとしてASEANハノイオフィスを開設しました。ベトナム国家大学ハノイ校は、政府に直属し、ベトナムに2つある国家大学のうちのひとつで、同大学傘下の科学大学と本学は、2013年3月に大学間交流協定を締結しています。共同研究及び学生交流をさらに促進するため、ベトナム国家大学ハノイ校科学大学において、12月6日(金)にベトナムで初めての北海道大学交流デーを開催し、共同オフィスの開所式を行いました。本学からは、笠原正典総長職務代理、国際連携機構の川野辺創副機構長・教授、網塚浩理学院長をはじめ、理学研究院、先端生命科学研究院、工学研究院、地球環境科学研究院の教員等計18名が参加しました。



開所式での集合写真

当日は、午前共同オフィス前での除幕及び、開所式を行いました。ベトナム国家大学ハノイ校科学大学のグエンティエンザン(NGUYEN TienGiang) 副

学長と笠原総長職務代理の挨拶があつた後、在ベトナム日本国大使館の麻妻信一次席公使からお言葉をいただきました。その後、両大学の紹介と、日本学生支援機構(JASSO)ベトナム事務所の萩原隆史所長から日本留学の概要について説明がありました。開所式には、両大学の関係者のほか、本学アンバサダーのレヴィエトズン(Viet Dung)氏や同窓生、学生など約50名が出席しました。

午後からは数学・機械学・情報科学、物理学、化学、生物学、地質学、環境科学、気象学・水文学・海洋学のグループに分かれ、研究交流や意見交換、研究プログラム紹介などを行いました。同大学の学生が積極的に質問する様子も見られました。今後も国際連携機構では、オフィスを活用して、ベトナムのほかASEAN地域全体との教育・研究機関等との連携拡大、教員や学生の相互交流の促進、卒業生ネットワークの構築を行い、幅広い面での交流を強化していくほか、優秀な留学生を本学へ受け入れる活動を展開していきます。(国際部国際連携課)

北海道大学アンバサダー（ベトナム）委嘱状交付式 および北海道大学ベトナム北部同窓会設立記念会合を開催

12月6日（金）、ベトナム・ハノイにおいて、ベトナム北海道大学アンバサダー、レヴィエツトズン（Le Viet Dung）氏に対して、委嘱状の交付を行いました。

ズン氏は、本学のベトナム人留学生の草分けとして、1993（1999年本学農学研究科にて修士／博士号を取得しました。従前勤務していたカントー大学に復職後、農学部長などの要職を歴任し、現在は副学長（国際関係・研究・質管理担当）を務めています。JICAの技術協力プロジェクトのみならずファースト・ステップ・プログラム生の受入れ等、本学との連携に篤く協力いただくと、ベトナム日本留学生同窓会副会長及びカントー市ベトナム日本親交協会会長を務めるなど、留学生OBとして同窓会活動に積極的に参加しています。

委嘱式は、同日開催の北海道大学交流デー（ベトナム国家大学ハノイ校科学大学）への参加者をはじめ、萩原隆史JASOベトナム事務所長、工藤拓也在ベトナム日本国大使館二等書記官（本学同窓生）、



ベトナム北海道大学アンバサダーと
笠原総長職務代理



ハノイエルム会の皆さん
左より幾島章仁北海道大学アンバサダー、上月浩Hoya Glass Disk Vietnamゼネラルマネージャー、工藤拓也ベトナム日本国大使館二等書記官

ベトナム人同窓生、幾島章仁北海道大学アンバサダー（ハノイエルム会長）、及び寺本二憲北海道大学パートナー（同会長代理）らが見守る中、温かな雰囲気で行われ、笠原正典総長職務代理から委嘱状が授与されました。ズン氏は、「私は北海道大学のことを Hokkaido University と呼んだことはありません。今までもずっと親愛を込めて「北大」と呼んできました」と始めた受嘱スピーチで、自らの人生がいかに「北大」で得た知識・経験・知己に支えられていくかについて深い感謝の念を語り、今後ベトナム南部同窓会の設立に世話役として尽力したい、との展望で結びました。

一方、同日行われた「北海道大学ベトナム北部同窓会設立記念会合」には8名の本学ベトナム人同窓生が参集し幹部の選出等が行われ、「ベトナム北部同窓会」の設



北海道大学アンバサダー委嘱式等
総合レセプション



懇談を楽しむベトナム人同窓生、
本学教職員および
寺本北海道大学パートナー（左端）

立が承認されました。川野辺創国際連携機構副機構長の挨拶と本学の最新情報についての発表で幕を開けた会合は、オプザバーとして参加いただいたズン北海道大学アンバサダーとの懇談も交えて終始和やかに進行しました。会長にはディンタンムン氏（Dr. DINH Thanh Mung、ベトナム農業・地方開発省 水資源局、科学技術・国際協力部職員）、副会長にはグエンマンクオン氏（Dr. NGUYENMANH Quang、DNP Water 社、ラボラトリーマネジャー）、幹事にはヴァーチーキム氏（Ms. VU THI Kim Chi、長崎大学熱帯医学研究所ベトナム拠点、リサーチアシスタント）が選出されました。

在日豪大使館コト大使クーパー公使の表敬訪問及びグリーン 在札幌領事への北海道大学アンバサダー委嘱状交付式を開催

12月17日（火）、在日豪州大使館のリチャード・コト大使、ブレット・クーパー公使（兼豪州貿易促進庁北東アジア担当ジェネラル・マネージャー）、在札幌豪州

領事館のロナルド・グリーン領事（兼豪州貿易促進庁貿易官）の笠原正典総長職務代理への表敬訪問に合せて、グリーン領事への北海道大学アンバサダー委嘱状交付

式を開催しました。グリーン領事と北海道の関わりは古く、北見柏陽高等学校への留学経験や、ご父君である豪タスマニア大学地質学者・豪国立大学名誉教授のデイヴィッド・グリーン博士が、本学総合博物館の客員教授として共同研究を行っていたことに端を発します。その後は、本学聴講生として日本語能力試験1級を取得し、日豪の経済連携に20年以上関わった後、在札幌豪州領事館領事に着任していました。



アンバサダー委嘱を受けた
グリーン領事

宮永喜一教授、同吉岡真治教授、工学研究院の五十嵐敏文教授らが参列しました。

名譽教授のデイヴィッド・グリーン博士が、本学総合博物館の客員教授として共同研究を行っていたことに端を発します。その後は、本学聴講生として日本語能力試験1級を取得し、日豪の経済連携に20年以上関わった後、在札幌豪州領事館領事に着任していました。領事として、本学と、メルボルン大学、シドニー大学、シドニー工科大学、カーティン大学といった豪州大学との共同研究・教育連携や、産学研究連携の支援を幅広く行っており、今般の委嘱式には、国際連携研究教育局（GICORE）人獣共通感染症グローバルステーションの新聞大史准教授、同関屋俊輝助教、食水土資源グローバルステーション長の井上京教授、ビックデータ・サイバーセキュリティグローバルステーション長の

診があつた折、ご父君に相談したところ後押しされたこと、初めてのオセアニア地域からの北海道大学アンバサダーとして、長きにわたる縁を活用していきたいことが語られました。列席のコト大使からは、IT、健康、農学、先住民研究等の分野で、北大と豪大学の活発な連携が起きていることは喜ばしく、特に西豪鉱業プロジェクトや豪サイバーセキュリティにおける協力を期待したいとの表明がありました。クーパー公使からは、令和元年内で在札幌豪州領事館を閉館しても、豪州にとつて北海道が重要な連携相手であることに変わりはなく、今後は公使が教育等の項目を立てての連携を日本国内機関に対して行っていくと伝えられました。

（総務企画部広報課、国際連携機構）

「オリジナルエコバッグ」 を新入生全員に配布

このたび、校友会エルムでは「オリジナルエコバッグ」を作成し、新入生約2600人全員に配布しました。

作成・配布

に至った経緯としては、キャンパス内のプラスチックごみの削減に向けて、北海道大学、北海道大学校友会エルム、北海道大学生協の三者で協議を行い、校友会エルムが毎年入学生に配布しているトートバッグの配布を見直し、プラスチックごみ削減に高い効果が期待できる「北大オリジナルエコバッグ」を作成して配布することになったものです。



スクールカラーであるグリーンの素材に「エンレインウ」をあしらったデザイン

作成に当たっては、北大オリジナルグッズのデザインを担当いただいているデザインナーの鎌田順也氏に依頼し、活用の推進を図るため、常に持ち歩けるよう、小さく折りたためる仕様にしていきます。当初、入学式での配布を予定しておりましたが中止となったことを受け、4月14日（火）に郵送にて新入生全員の手元に届けました。

校友会エルムでは、本取り組みにより、キャンパス内のプラスチックごみ削減に貢献していきます。

（総務企画部広報課）

塚本尚義理学研究院 教授に紫綬褒章

この度、理学研究院教授の塚本尚義（ゆりもとひさよし）氏が紫綬褒章を受章しました。同氏の長年にわたる教育・研究に対する優れた業績と我が国の学術振興の発展に寄与された功績に対し、授与されたものです。

同氏の受章にあたっての感想、功績等を紹介いたします。

（総務企画部広報課）

【感想】
現在、世界中がコロナ禍にみまわれ

ています。禍にあわれました皆様にお見舞いを申し上げます。最前線でご活躍の皆様には最大のエールを贈ります。北海道大学では、緊急事態宣言とともに、職員も学生もテレワークになりました。そのため、教育も直接の対面ではできなくなりました。学生のみならずにはご不便をおかけしますが、未知の体験には新しい発見と大きな成長があります。ウイルスと喧嘩せず、仲良く、付き合っていくよう変化していきます。

さて、この度は、春の褒章で紫綬褒章の荣誉に浴し、身にあまる光栄です。

私の研究人生は、創立間もない筑波大学第一学群自然学類に入学した時から始まります。筑波大学は、「開かれた大学」「柔軟な教育研究組織」



Kaibonaka Yoshiki

「新しい大学の仕組み」を基本理念としていました。当時は幼くてこの理念をよく理解できていませんでしたが、現在の日本の大学が掲げている理念と基本的に同じです。幸か不幸かこれが私の大学を考える出発点となりました。和歌山の田舎から出てきた私にとって、茨城県新治郡桜村(現つくば市)の風景はそんなに違和感はありませんでしたが、新しいキャンパスの景色は広大さと最先端が入り混じったもので大変衝撃を受けました。当時、広大で、殺風景と思ったキャンパス風景は、現在では見事に熟成し、設計者の先見性と芸術性に感服します。最先端だったシステム・設備は、時代遅れになっていますが、底辺に流れていた思想と原理は現在見事に熟成していると感じます。大学の周りには国立研究機関が建設され、筑波研究学園都市として発展していくところでした。当時の都市全体は、筑波大学の理念同様開かれており、自由に往来ができました。今思えば、恩師の末野重穂先生の広い人脈のおかげで自由に行き来ができ、色々な先生方から教鞭を受けることができたのだと思います。特に、無機材質研究所(現物質・材料研究機構)、高エネルギー物理学研究所(現高エネルギー加速器研究機構)

のほど、よろしくお願い申し上げます。【功績等】

Kaibonaka Yoshiki, 昭和33年3月12日和歌山県に生まれ、同55年3月筑波大学第一学群自然学類を卒業し、同60年3月同大学院地球科学研究所科博士課程を修了し、理学博士の学位を授与された。

その後、昭和60年4月日本学術振興会奨励研究員、昭和61年3月筑波大学地球科学系助手、平成4年4月同大学院地球科学系講師、同6年9月東京工業大学理学部助教授、改組により同10年4月同大学院理工学研究所助教授を経て、平成17年4月北海道大学大学院理学研究科教授、改組により同18年4月北海道大学大学院理学研究科教授として今日に至っている。

この間、同人は、永年にわたって、地球惑星科学の教育、研究に努め、また、固体物質の微小領域の同位体分布をイメージングする同位体顕微鏡を世界で初めて実現し、隕石中から新物質を新たに発見し、原始太陽系の酸素同位体異常の大きさが従来知られていたより6倍大きいことを見出し、星間物質から惑星形成に至る物質進化のプロセスの新説を提唱する業績をあげることにより太陽系の起源とその物質進化の研究の発展に貢献した。

同人は、特に、太陽系の起源とその進化の研究において、隕石を物質科学的に取り扱うことを基礎とし、隕石を構成する鉱物の結晶組織・結晶成長様式解析と微量元素に至る化学組成・同位体組成分析を融合し、観察事実

地質調査所(現産業技術総合研究所)にせつせと足を運び、専門の地球惑星科学だけでなく、理学・工学の数居関係なく色々な素養を教えていただきました。現在、私の研究室は「開かれた研究室」を実践していますが、その楽しさは、この時代に末野先生から教えていただきました。また、先生は私が自由に研究することを見守って支援してくださいました。この時代のエピソードとして、突然、宇宙科学研究所(現JAXA)の水谷仁先生から「ゆりちゃん、日本もサンプルリターンしたいんだけど、どこに行ったらいいのか話してよ」と電話がかかってきた事があります。その約20年後に、はやぶさが成功しました。

このように自由気ままな私に転機が訪れたのは、東京工業大学理学部からの誘いでした。当時、東工大では、中澤清先生、丸山茂徳先生、高橋栄一先生が中心になり、地球惑星科学を立ち上げ始めたところでした。塩原の末野先生の別荘で筑波大時代最後のゼミ合宿を楽しんでいたら、辞令1ヶ月前にも関わらず、東工大の教室会議に突然呼ばれました。その会議の最後に初対面だった齋藤正徳先生から「ああ、Kaibonakaさんは初めてだったのですね。全くそんな気がしませんね」と歓迎の言葉をいただいたことを思い出します。東工大地惑では、これまで見たことも聞いたこともない世界最先端の惑星科学の議論が、くつろぎのお茶の時間の日常でした。年齢が上がったせいか、大学の事務の方々とも知り合う機会が増え、筑波大にはなかった歴史ある大学の文化を教えていただきました

から隕石形成環境とその時間変遷を決定することに力を入れ、その手段として同位体顕微鏡の開発を世界で初めて行った。

まず、同位体顕微鏡開発の研究では、電荷外部変換型の積層型固体荷電粒子撮像素子を考案し、設計製作改良を繰り返して、読み出し雑音が低くピクセルあたり5桁のダイナミックレンジを持つ積分型検出器SCAPISを発明した。この検出器は、KeV程度の運動エネルギーを持つ全ての元素・同位体を1個から検出する感度を持つ。この検出器を投影型2次元オン質量分析装置と組み合わせ、視野1000μm・分解能0.2μmの性能を持つ同位体顕微鏡を世界で初めて開発した。

この同位体顕微鏡を用いて、ケイ酸塩星間物質と酸化物星間物質を、隕石中から世界で初めて発見し、星間物質の中でケイ酸塩物質が最も多量に存在するものである説を証明した。本発見により、隕石中のどこにどのような状態で星間物質が存在しているかが明らかになり、太陽系形成前の歴史(先太陽系史)を物質科学的に研究する道を拓いた。

また、同位体顕微鏡により、太陽系形成初期に形成したこれまで知られていなかった新物質を新たに発見し、太陽系の酸素同位体異常がこれまで知られていた大きさより6倍大きいことを明らかにした。この時、最も軽い質量の酸素で構成される物質が持つ酸素同位体組成が太陽のものであり、最も重い質量の酸素で構成される物質の酸素同位体組成が彗星

た。また、事務の方々と協働で実験室を立ち上げる手法を教えていただきました。東工大の同僚たちは、ユニークなキャラクターの持ち主で、次世代の地球惑星科学を推進している、世界オンリーワンの方々でした。そこで、私は、同位体顕微鏡の開発に力を入れ、研究を隕石の研究に集中することに舵を切り、同僚たちとの強い相互作用を楽しみました。私の研究室のキャッチフレーズの「We are always on the frontier」はこの時代に生まれました。この時作った実験室をそのまま札幌に、精密機器運搬用大型トラック3台で、運ぶことになろうとは、この時、夢にも思っていませんでした。

次の転機は、倉本圭先生と渡部重十先生に北海道大学理学部に誘われたことです。私にとって初めての旧帝国大学です。一步踏み入れた途端、伝統と懐の深さを感じました。長田義仁先生に格別な部屋を与えていただき、岡田尚武先生に多額の借金を許可いただきました。そのおかげで、現在の同位体イメージング実験室(三)があります。北大では、柱である惑星科学の研究を推進すると共に、旧帝国大学の強みを利用していただき、今まで交流ができていなかった周辺分野のたくさんの方と知り合いになることを楽しんでいきます。その結果、私が著者の一人になっている研究論文を発表した分野が、理学、工学に加え、農学、医学、歯学、薬学、水産学に広がりました。もし獣医学分野の論文が書ければ、北大理系全学部を制覇です。

北大に来てからはCosmo、広報

の水であるという予言をした。軽い酸素を持つ物質からの予言が正しかったことは、後に米国NASAが実施した太陽風サンプルリターンミッションの成果により証明されている。

太陽系形成初期において、これまでは、最初にCAIが形成され、その後約200万年が経ってからコンドリュール形成が始まると考えられていた。しかし、CAIよりコンドリュールが先に形成されたことを示す組織を持つ物質の存在を初めて発見し、CAIとコンドリュールは同時に形成したという新説を、初めて提唱した。この説は、最近の年代測定結果より支持されている。

分子雲から太陽系形成に至る研究において、酸素同位体組成の時間変化を、光化学反応と原始惑星系円盤の形成ダイナミクスを組み合わせ、星間物質の化学反応と空間運動により理論的に解析した。この理論と隕石から求めた原始惑星系円盤の酸素同位体異常を組み合わせ、星間物質から惑星形成に至る物質進化のプロセスの新たな説を提唱し、その後のこの分野の新しい研究方針の潮流を引き起こした。

太陽系形成初期のダスト形成の研究において、いろいろな程度の太陽系の酸素同位体異常は2種類のガスリザーバーからの混合により作られ、その2種類のリザーバーは原始惑星系円盤中に同時に存在していたことを、CAIの分析結果から、明らかにした。このリザーバー存在の実証により、ダスト形成中の原始惑星系円盤の物理化学条件とその時間変動を理解する研究が開始されつつある。

課、学校、市民団体の皆様に助けていただき、市民講演会などを通じて、市民の皆さんとふれあう機会をなるべく多くとってきました。札幌に来てイベントの企画が得意な皆さんと知り合えたおかげです。私の研究について市民の皆さんに知っていただき喜んでもらえれば幸いです。そして道民の皆さんに受け入れてもらったと感じたのは、北海道新聞文化賞をいただいた時です。この賞は、私がいちいち唯一の市民賞です。他の学術賞と明らかに違う感激がありました。次の市民講演会は、6月の北大祭でやらせていただくことになりましたが、コロナ禍のため延期になりました。残念です(北大祭が秋に開催されたら是非やります)。これからも機会ある毎に行わせていただきたいと思います。

幼少時代は極度の人見知りと引っこ込み思考で両親を困らせた私に、人との出会いが楽しく刺激的であることに気がつかせていただき成長させてもらったのは、今までたくさんのお会いを引き合わせてくださった62年間の数えきれない方々のおかげです。特に研究成果については、今までの学生の皆さんのものです。名古屋大学名誉教授の熊澤峰夫先生から「Kaibonakaは盗人だ」とお褒めの言葉を昔いただきました。ですから、これまで、わがままな私の研究と教育活動を支えてくださった恩師、同僚、学生、大学事務の皆様、そして家族に、心から感謝を申し上げます。定年までもう少しだけ間がありますので、これまで同様、気ままに精進して参りたいと思います。皆様には、今後ともご指導、ご叱責

最後に、惑星探査の研究において、はやぶさ、はやぶさ2による小惑星サンプルリターンミッションを推進した。はやぶさでは、はやぶさ回収試料の初期分析を担当し、小惑星イトカワが普通隕石であることを明らかにした。はやぶさ2では、はやぶさ2回収試料を格納し配分する特殊な設備の建設を行った。

また、米国サウスダコタ鉱業技術大学からシニア研究員として招聘され、同大学の新しい質量分析実験室を立ち上げ、先カンブリア時代のブラックヒルズ花崗岩に存在する不思議な希土類元素組成の解明を行なった。

これらの業績に対して、平成18年7月日本鉱物学会賞、同18年9月日本地球化学会賞、同24年8月Meteoritical Society Fellow、同25年8月Geochemistry Fellow、令和元年7月Leonard Meadeをそれぞれ受賞した。さらに、日本地球化学会会長、同学会副会長などの要職を歴任し、学会の発展に多大の貢献をした。以上のように、同人は、地球惑星科学における宇宙地球化学の研究と教育に尽くしたものであり、その功績は誠に顕著である。

略歴 table with columns for year and event: 生年月日 昭和33年3月12日, 昭和60年4月 日本学術振興会奨励研究員, 昭和61年3月 筑波大学助手, 平成4年4月 筑波大学講師, 平成6年9月 東京工業大学助教授, 平成17年4月 北海道大学教授

(理学研究院)

「ポストコロナ時代の東アジア」オンラインで開催

4月30日(木)、メディア・コミュニケーションシオン研究附属東アジアメディア研究センターの主催で緊急座談会「ポストコロナ時代の東アジア」新しい世界のコミュニケーション」を開催しました。



座談会の配信画面

新型コロナウイルス感染症の拡大で集会ができない状況をふまえ、オンライン会議システム「Zoom」を利用した座談会をYouTubeでライブ配信する方式で行いました。当研究院では初の試みとなります。

新型コロナウイルスはヒト・モノ・カネの移動を遮断し、国や地域の境界を閉ざしました。非常事態に直面し、東アジアや欧州では地域間の分断や対立が顕在化したように見えます。本座談会では、東アジア各地域において政府が新型コロナウイルス事態にどう対処してきたのか、それをメディアがどう伝えたのかを報告し、その後コメントーターとともに、ポストコロナ時代のコミュニケーションの展望と課題を議論しました。

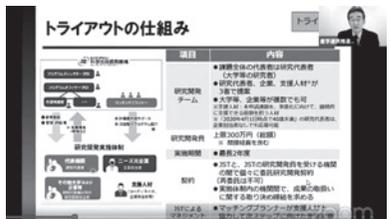
報告は中国・台湾・香港・韓国・日本の5地域を対象でしたが、同じ東アジアでも政府と市民社会の関係は地域によって大きく異なり、それが新型コロナウイルスへの対応策の成否にも少なからず影響を及ぼしたことがわかりました。「コロナ封じ込め」に成功したと評価される地域の成功体験を共有できれば東アジアに新たな連帯のコミュニケーションが生まれると期待されます。しかし現状は、日本と韓国、中国と台湾及び香港の対立が表面化するなど、今後のコミュニケーションのあり方に課題を残しています。

初のオンラインセミナー(ウェビナー)とあって主催者側の不手際もありましたが、リアルタイムの視聴者は約90人、アーカイブ視聴は100人を超え、集会や移動が制限される中での取り組みとしては一定の成果をあげたと思われる。

主催：メディア・コミュニケーション研究附属東アジアメディア研究センター
(メディア・コミュニケーション研究院)

「A-STEP説明会」を開催しました

4月8日(水)に研究成果最適展開支援プログラムA-STEPの「トライアウト」産学共同「事業についての説明会を開催しました。当日は新型コロナウイルスの影響を鑑み、会場での説明会を中止し、YouTubeでライブ配信しました。また、説明会の様子は録画し、開催後16日間、当機構HPにて視聴可能となりました。ライブ配信中は100名前後に視聴をい



A-STEPトライアウト事業説明の様子

ただき、その後の録画放送の視聴を含め、合計で約250回程度の視聴がありました。A-STEPは企業と共同で提案するプログラムが多いため、出張が制限されている中、遠隔の企業担当者にも視聴していただくことができました。また、4月末時点で約40組の教員等から提案に関する相談を受けており、産学協働マネージャーが対応を行っています。今後も企業との共同研究に連携する支援を目指していきたいと考えています。

(産学・地域協働推進機構)

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動を行うこと

としています。皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いいたします。

【4月のご寄附状況】

北大フロンティア基金累計額

(4月30日現在)
26,158件 5,120,398,967円

法人等4社、個人107名の方々から47,257,651円のご寄附を賜りました。ご厚志に対しまして感謝を申し上げます。

(総務企画部広報課)

令和2年度新渡戸カレッジに473名が入校

令和2年5月、基礎プログラム学部教育コース300名、オナーズプログラム学部教育コース125名及び基礎プログラム大学院教育コース36名、オナーズプログラム大学院教育コース12名の計473名が新渡戸カレッジの各プログラムに入校しました。

代理の挨拶と杉江和男校友会エール会長の祝辞をウェブサイト及びELMS内で配信し、フェロー代表2名の挨拶(動画)及び修了生と在校生からの歓迎の挨拶(動画)をELMS内で配信し、新渡戸カレッジへの入校を歓迎しました。

新渡戸カレッジでは、「新型コロナウイルス感染症防止のための北海道大学の行動指針」に基づき、令和2年度入校式の開催を中止し、一部挨拶や祝辞、オリエンテーション等についてオンラインで実施及び配信しました。学部教育コースでは長谷川晃校長

令和2年度 5月新渡戸カレッジ入校者一覧

プログラム	コース	入校生数
基礎プログラム	学部教育コース	300
	大学院教育コース	36
オナーズプログラム	学部教育コース	125
	大学院教育コース	12



森順子フェローからの挨拶



在校生 荒幹彦さんからの歓迎の挨拶



基礎プログラム及びオナーズプログラム大学院教育コースの入校時のオンライン集合写真

「北海道大学広報用写真素材」バーチャル背景画像の提供を開始

総務企画部広報課では、5月から、オンライン授業やウェブ会議用等で使用できるバーチャル背景画像の提供を開始しました。従前より掲載している「北海道大学広報用写真素材」として追加したもので、本学構成員は学内ネットワークからダウンロードして利用可能です。

また、COSTEPや理学部のFacebookでも、屋外の画像を中心に背景画像を提供していますので、あわせてご利用ください。(総務企画部広報課)

- ◆北海道大学理学部facebook @School.of.Science.HU
- ◆いいね!Hokudai facebook @Like.Hokudai

広報用写真素材「バーチャル背景画像」





がんではない。
ひとりを見つめるのだ。

私は何と闘っているのだろう
がん細胞？
いや 向き合うべき相手は
ひとりの人間ではないのか
ひとつとして同じ遺伝子はない
つまり 同じ答えはない

一人ひとりの遺伝子変異に基づく
がん医療に貢献しています。

創造で、想像を超える。



Hokkaido University Frontier Foundation
北大みらい投資プログラム

毎月1,000円からの継続寄附ができます！

クレジットカード決済や口座振替で、継続寄附も利用できます。
たとえば、毎月1000円の寄附金をクレジットカード
から引き落とすことも可能になりました。

クレジット
カードから
でもOK



※お申し込み後、ホームページから
内容の変更や解約が可能です。

PCインターネット、スマートフォンもOK！

振込用紙のほかにPCやスマートフォンからの支払いが可能。「北大フロンティア基金ホームページ」にアクセスすれば、簡単な操作でクレジットカード決済やコンビニ決済が可能です。



北大みらい投資 検索

寄附金の使途を4つの中から指定できます！

寄附したお金の使いみちを「北大みらい投資プログラム」で取り組んでいる
下記の4つのメニューから指定することができます。

① 給付型奨学金

経済的な援助として、北大
への進学者や修学継続
希望者に、返還の必要の
ない給付金を交付します。



※こちらは下記の「税額控除」も適用となります。

② 海外留学・インターンシップなどの資金

海外協定校への派遣や
海外語学研修への支援、
短期留学・研修・国際イン
ターンシップへの支援など
に使うものです。



③ 課外活動などへの支援資金

運動部・文科系サークルへの支援(個別指定可)、サークル会館、体育館、グラウンド整備のためなどに使うものです。



④ 使途指定資金

特定の学部への支援、特定の研究分野への支援などに使うものです。



税制上の優遇措置

当プログラムへ寄附された方は、税制上の優遇措置「所得控除」が適応されます。

★最新情報はホームページをご覧ください。 **北大みらい投資プログラムは寄附申し込みフォーム「寄附目的」から選択**
【北大みらい投資で検索】 <https://www.hokudai.ac.jp/fund/mirai.html>

平成18年に「北大フロンティア基金」が設立、以来、多くの方に「賛同いただいたてきましたが、より一層の充実を図るため、平成30年より北大フロンティア基金の中に「北大みらい投資プログラム」が設けられています。

個人寄附がしやすくなり、寄附金の使途を寄附者が指定することができるようになり、新たな使い方が可能です。ぜひ一度ホームページをご覧ください。これから母校ならびに学生たちへの支援の輪を広げていきましょう！

北大フロンティア基金



地球人の一員として。

国連が発表した「持続可能な開発目標(SDGs)」は、グローバルな取り組みです。
 一企業にとってはあまりにも大きいテーマであるけれど、地球に住む一員として
 「今ならできる」「今こそできる」ことをいねいに進めていけば、
 必ずゴールが見えてくると信じます。 www.tokuyama.co.jp

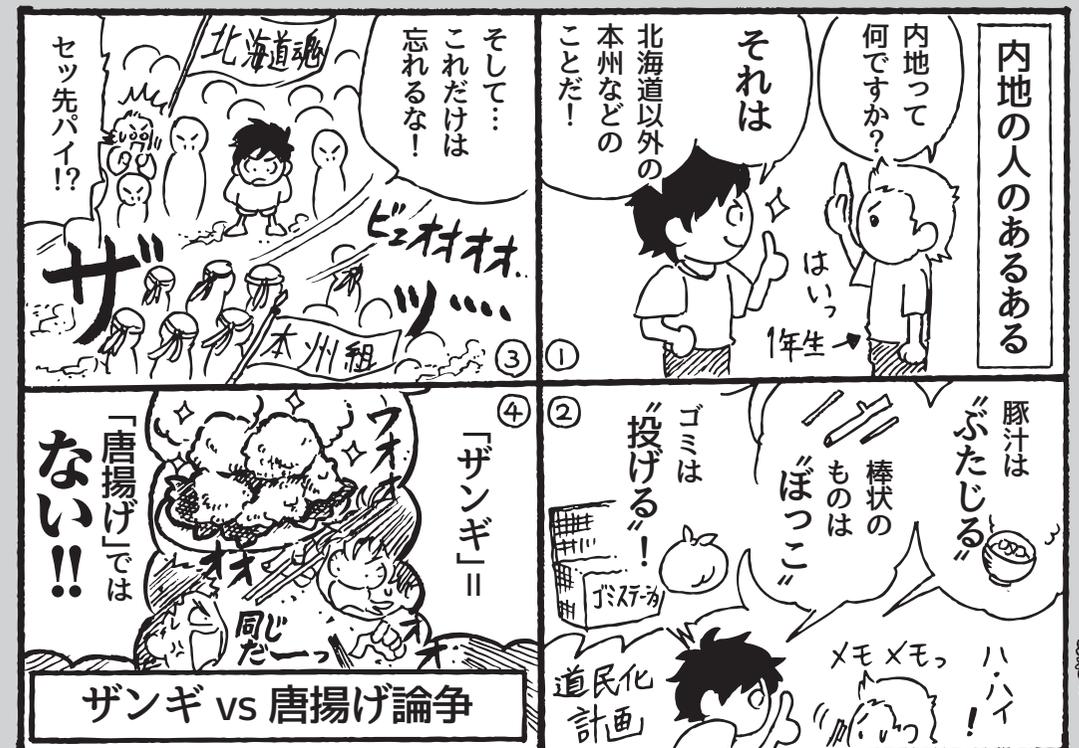
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

お知らせ

評議員会・理事会、多磨霊園墓参、新年交礼会など、今年度の東京同窓会のスケジュールは、6ページに掲載しておりますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、開催が延期や中止となることが予想されます。
 随時、メールニュースやホームページにてお知らせ致しますので、予めご了承くださいませようお願い致します。
 なお、秋に延期しておりました今年度の「北大東京ジンパ2020」、ならびに本校での「ホームカミングデー2020」(9/26)は中止が決定しております。

エルム談話室について

2020年3月から開催を見送ってきましたエルム談話室ですが、毎月同窓会会議室に集合して、講師のお話を聞くような従来の形式での開催は困難な状況にあります。
 同窓会会員からオンライン談話室、あるいはウェビナー実施等のご要望をいただいております。今後どのような形式と内容で実現可能かを検討のうえ、決まり次第メールニュースなどでお知らせいたします。



イラスト©高野葵(H25環境科学院)

歳久人の北大あるある



北海道の花

絵と文 鮫島 惇一郎

かつて農林省林業試験場北海道支場とっていたが、今は長つたらしく、国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所北海道支所というところか。いやはやこれには参ってしまう。

さて、その支場に勤務していた頃だ。回ってくる試験、研究に使える予算も充分ではない。まして営繕費となると雀の涙！職員宿舎も市営住宅に頼る時代であった。支場に勤め始めて

から3年目、やっと寮の一部屋から開放されて職員宿舎に入居できた。やれ嬉しやと入居して驚いた！畳表がポロポロ、歩けば靴下の裏は畳の屑で真っ白になった。係に掛け合ったら予算がないから何かカーペットでも敷いていたらという返事。

何か妙案はないものか？定山溪電車の豊平駅付近を歩いたら「八畳分のフローリングあり、格安」という貼り紙を見つけた。おかしなカーペットを

求めるよりははるかに安い。長さは不揃いだ、立派なマカバ材だ！しかもマカバ本来の見事な褐色材であった。これにしよう！ぼろの畳は支場の倉庫で預かるという。早速マカバのフローリング敷の部屋に変身というわけだ。だが後のことを考えて、釘は打たなかった。年月が流れて彼らは江別の丸太小屋で今も生き延びている。

同じ頃、北海道産の主なカンバ属のウダイカンバ、シラカンバ、ダケカンバの優良個体と優良林分を見付けて育種することを目的とした「カンバ属の育種」という研究項目があった。

中でも注目されたのが、ウダイカンバ（マカバ）であった。このカンバは利用する立場ではマカバとメジロカンバを区別していた。材となったとき、白味が多く赤味が少ないのがメジロカンバで、白味が薄く赤味が多いのがマカバで価格も断然高いというのだ。ならば伐採しないで外見からマカバとメジロが見分けられないかと探し続けたが、うまくゆかなかった。その後どうなったか？新しい手立ては見つかっただろうか……



ウダイカンバ（マカバ）

編集後記

このコロナ禍で今号は記事投稿が少なくなると思いきや、各方面で活動されている卒業生からたくさんのお原稿を送っていただいた。それぞれの文面や校正をやりとりする中で、現状を冷静に捉えていることが何え元気をもらった。花見もジンバも飲み会もなく味気ない春夏だっただけに、遅いスビリッツを尚更感じた気がする。

次号では今年開催できなかった北大東京ジンバのお知らせができるといいのだが。同窓生のみなさま、どうぞご自愛ください！

(島田久)

FRONTIER 北海道大学 東京同窓会会報

第57号 2020年(令和2年)8月20日発行

発行所: 北海道大学東京同窓会
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12
サピアタワー10階

☎03-3211-9211 ☎03-3211-9288

Eメール hokudaic@poppy.ocn.ne.jp

H P http://www.hokudai-tokyo.org/

発行人 横田 浩

編集人 高橋 寛

浦崎 稔史

谷畑 敦史

島田 久

山本 淳博

陣谷 義直

松永 千代

八谷 俊雄

高野 青千穂

